

日時 令和5年6月8日(木)午後2時～
会場 総合体育館大会議室

令和5年度 第1回松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会

次 第

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員、事務局会議委員、事務局自己紹介
- 4 会議事項
 - 松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会役員選出【別添1】
 - 子どもの「やってみたい！」を応援する_ガクトまつもとプロジェクト【別添2】
 - 地域移行モデルケースの進捗状況【別添3】
 - 休日部活動の地域移行スポーツ競技団体取組状況【別添4】
 - 部活動の地域クラブ活動への移行に係る調査の結果【別添5】
 - 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点【別添6】
- 5 その他
- 6 閉会

令和5年度 部活動地域移行プロジェクト 体制表

部活動地域移行検討協議会 10名(年4回開催)

役職	職名	氏名
委員	日本部活動学会副会長、大日向中学校長	長沼 豊
	松本大学健康科学研究科准教授	新井 喜代加
	中学校長会長(丸ノ内中学校長)	宮下 昌史
	山間小規模校代表(会田中学校長)	宮澤 陽子
	P T A 連合会	加藤 慎介
	P T A 連合会	矢野 麻美
	市スポーツ協会事務局長	横内 俊哉
	NPO法人松本山雅スポーツクラブ理事長	柄澤 深
	芸術文化振興財団理事長	青山 織人
公民館長会会長(今井公民館長)	櫻井 貞文	

部活動地域移行検討協議会参加メンバー 19名

役職	職名	氏名
オブザーバー	信州大学教職支援センター准教授、松本市教育顧問	荒井 英治郎
会員	教育長	伊佐治 裕子
	教育次長	逸見 和行
	教育監	坂口 俊樹
	教育政策課長	小西 えみ
	学校教育課長	清沢 卓子
	学校施設担当課長	丸山 丈晴
	生涯学習課長	石川 善啓
	文化観光部長	小口 一夫
	文化振興課長	清澤 明子
	スポーツ本部長	大島 良司
	スポーツ事業推進課長	山本 茂
	住民自治局長	藤森 誠
地域づくりセンター長	麩 国人	
事務局	市総括コーディネーター	幅 誠一郎
	指導主事	高山 智史
	係長	降旗 基
	主査	竹内 賢
	主査	千賀 康孝

協議会ワーキングメンバー 15名

所属課	職名	氏名
学校教育課	課長補佐	小岩井 宏
	課長補佐	小笠原 晃子
	主事	中村 武史
学校支援室	市総括コーディネーター	幅 誠一郎
	指導主事	高山 智史
生涯学習課	課長補佐	中村 安広
	主査	小岩井 一樹
	主任	森田 耀子
文化振興課	課長補佐	公保 靖彦
	主事	脇谷 絵梨香
スポーツ事業推進課	課長補佐	三井 正勝
	主査	齋藤 康治
事務局	係長	降旗 基
	主査	竹内 賢
	主査	千賀 康孝

松本市教育委員会告示第7号

松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会設置要綱を次のように定める。

令和5年3月23日

松本市教育委員会

松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に向け、学校部活動から地域クラブ活動への移行を検討するため、松本市学校部活動の地域クラブ活動への移行検討協議会（以下「検討協議会」という。）を設置することについて、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 検討協議会は、次に掲げる事項を所掌する。

学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に関すること。

移行に係る市の基本方針に関すること。

前2号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認めること。

(組織)

第3条 検討協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

学校教育関係者

スポーツ・文化活動関係者

有識者

前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める者

3 検討協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

4 会長は、検討協議会を代表し、会務を総理する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から地域クラブ活動への移行が完了するまでの間とする。

(会議)

第5条 検討協議会は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 検討協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者を出席させ、説明

又は意見を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 検討協議会の庶務は、教育委員会教育政策課において処理する。

(補則)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この告示は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

子どもの「やってみたい!」を応援する ガクトまつもとプロジェクト



松本らしいカタチで
部活動の「地域クラブ活動への移行」
を実現しよう



部活動の現状（子どもの視点から）

軟式野球やりたいけれど、部活動がない。
→やりたい種目は、私の中学校にはない。

休日は他の種目をしたい／休日は休みたい

「空手」「スケートボード」「ボルダリング」
「ブレイクダンス」もやりたい。
→部活動にない種目にも挑戦したい!

スポーツが苦手でもちょっと試してみたい。
楽しみながらやりたい。

専門的な先生の指導で、もっと本格的にやっ
てみたい。

子どもたちにもそれぞれ多様なニーズがあり子どもを主役とする活動が望ましいのですが、実際には、必ずしも望ましいスポーツ・文化環境とは言えない現状

部活動の現状

◆中学校における**部活動**は、これまで、子どもたちが学校という身近な場所でスポーツや文化活動に触れ、**競技力や技術を向上**させるとともに、**達成感や連帯感を育む活動**として、長年、日本独自のシステムとして定着してきました。

◆しかし、**少子化に伴う活動の停滞**や、教員の働き方に関する事など、**これまでのシステムが機能しなくなり**つつあり、近年、**抜本的な改革が必要**となっています。



部活動の「地域クラブ活動への移行」とは？

当該校の施設で当該校の教員が指導する活動
(学校教育の一環 ただし教育課程外)



地域の多様な主体 (競技団体、地域団体、個人、兼職兼業の教職員など) が、
地域の様々な施設 (学校施設を含む) で行う多様な活動
(学校と連携して行う地域クラブ活動)

※法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術

◆松本市では、この改革をチャンスととらえ、子どもたちが自分のやりたい活動に自分らしく取り組めるような多様性に満ちた環境を整えたいと考えています。

◆松本市教育大綱「子どもが主人公 学都松本のシンカ」（令和4年2月策定）では、「子どもを主人公とし、その学びを地域社会全体で支えること」を理念に掲げています。

◆この理念に基づく地域のスポーツ・文化活動の環境を市民の皆さんとともに整え、松本らしいカタチで部活動の「地域クラブ活動への移行」を進めていきたいと思えます。



国の提言から

- まずは、休日の部活動から段階的に地域クラブ活動へ移行していくことを基本とする。
- 改革推進期間
(令和5年度の開始から令和7年度末を目途)

国の予算化を受けて市町村が取り組んでいく



スポーツ庁 | 運動部活動の地域移行に関する検討会議 提言；文化庁 | 文化部活動の地域移行に関する検討会議 提言

現行の部活動を続けることで予想される未来

部活動の地域クラブ活動への移行による新たなシステムにより、2つの問題が解決される可能性がある。

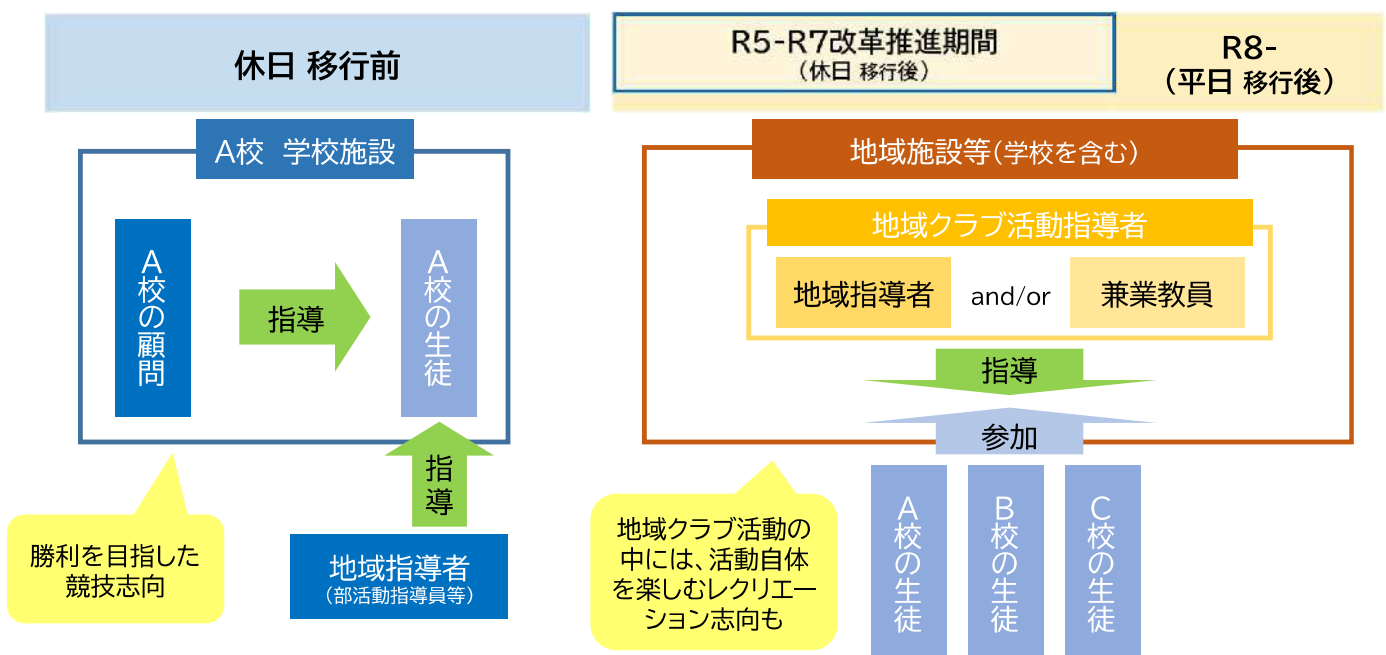
1. 子どもに関すること

- ・存続しても少人数の低調な活動
- ・教員数も減少となり廃部の危機

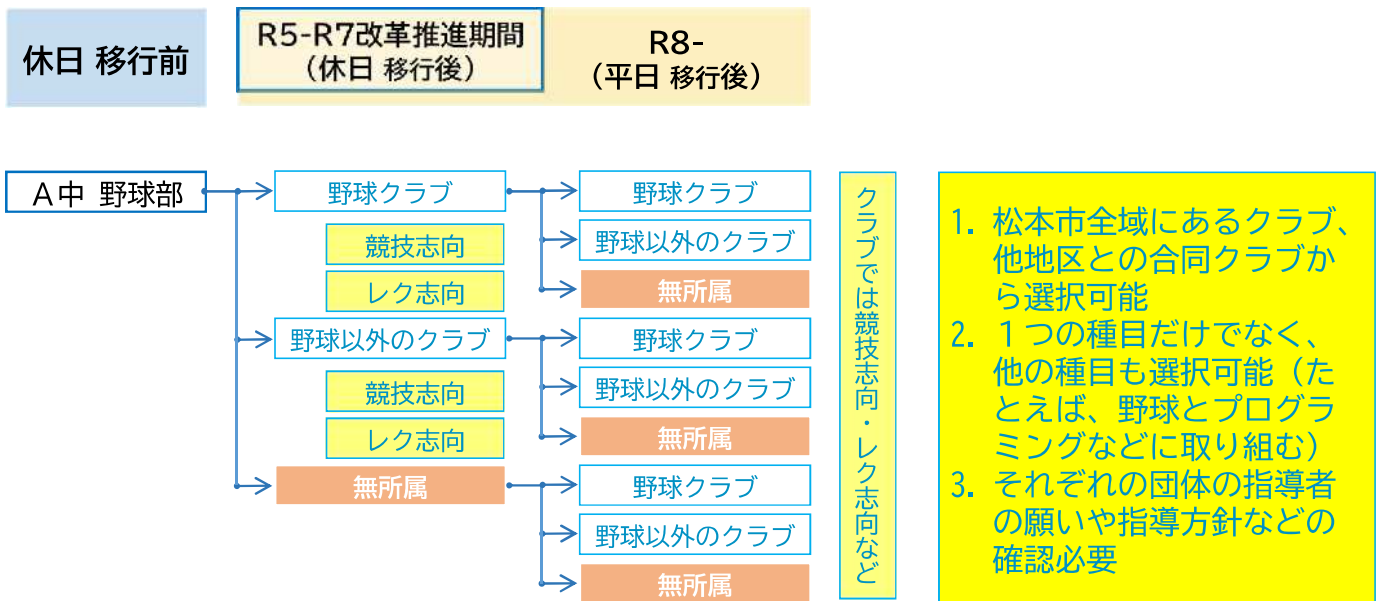
2. 教員に関すること

- ・中学校教員…長い時間外勤務(45時間超)の高い割合
- ・部活動が一因

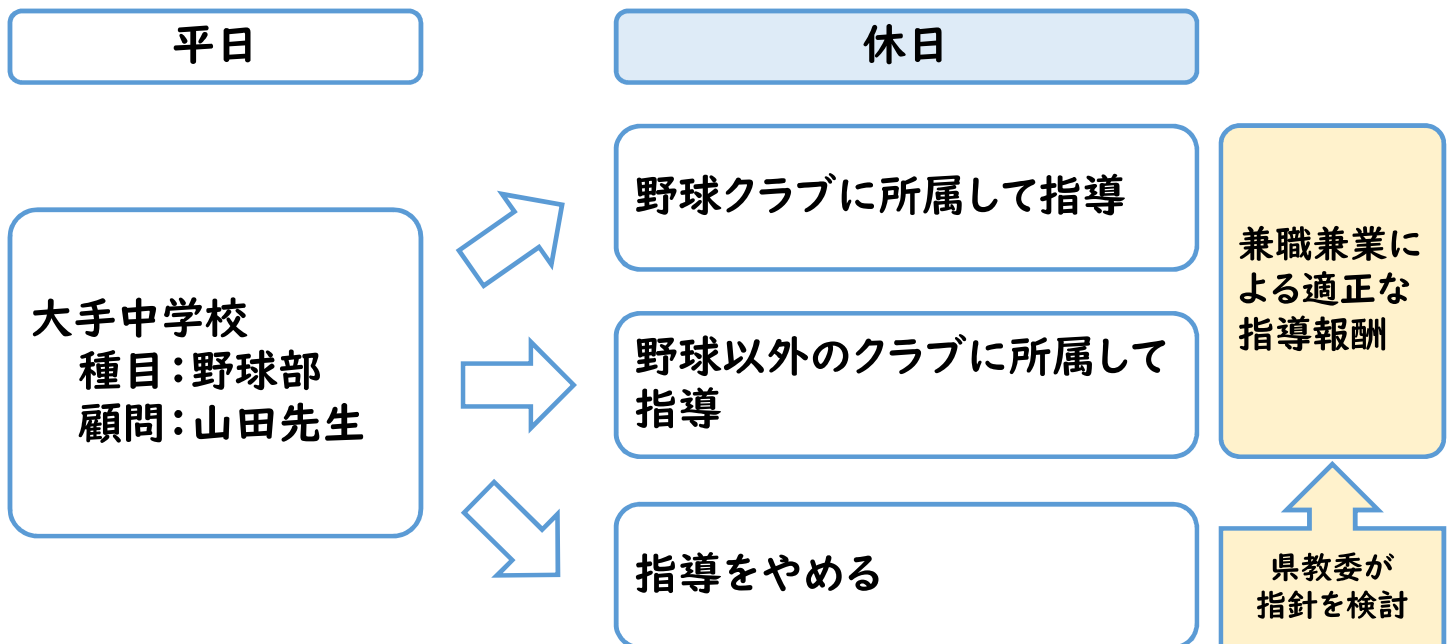
永続的に子どもを支援できるシステム(例) 【主に子どもの視点】



永続的に子どもを支援できるシステム(例) 【主に子どもの視点】



永続的に子どもを支援できるシステム 【主に教員の視点】



永続的に子どもを支援できるシステム 【主に保護者の視点】

- 地域クラブ活動（習い事）に通うことで、子どもの「やってみたい」という思いを叶えられる可能性。
- しかし中学校区の近隣に、「やってみたい」地域クラブ活動があるとは限らない。
 - ①活動場所までの送迎が必要になる可能性
 - ②指導料の負担が必要になる可能性

松本市として目指す方向性

1. 休日の移行のみならず、将来的な平日への移行も今から見据える。
2. 広い市域であっても、できる限り、子どもの「やってみたい」と思う活動を選択できる環境を整備する。
3. 地域クラブ活動へ移行しても、松本市の指針に沿った適正な活動を前提とする。
 - 「松本市中学生期のスポーツ活動指針」
 - 「松本市中学生期の文化活動指針」



子どもの「やってみたい!」を応援する ガクトまっもとプロジェクト



松本らしいカタチで
部活動の「地域クラブ活動への移行」
を実現しよう



学校部活動から地域クラブ活動への移行モデルケース

受益者負担を基本に持続可能な子どものやりたいを応援する組織体制や仕組づくりを目的に、モデルケースを先行実施し、移行に向けた課題の洗い出し、適正な負担額、市の支援策等を検討する。

4つのモデルケース

学校丸ごと移行型（梓川中学校）	
ア 受け皿	梓川少年スポーツ教室（10種目）
イ 運営主体	梓川少年スポーツ教室
ウ 選定理由	<u>団体が受入れに前向きで、組織としても成立。梓川中学校の生徒の多くが、既に教室に参加</u>
エ 指導者	地域の指導者
複数学校の特定競技移行型（軟式野球）	
ア 受け皿	既に行われている合同部活動ケースをベースにしながら、野球部がない学校も参加できるかたちのクラブチーム
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	野球部のある中学校は、 <u>単独チームの編成が困難な学校が多数あり、既に合同チームで大会出場するケースあり</u>
エ 指導者	教員＋地域の指導者
オ その他	1月中旬に各中学校の野球部顧問に説明、意見交換を実施。いただいた意見を参考に、新3年生引退後の6月末以降の体制について検討
少数部活動種目移行型（バドミントン） <small>少数部活動とは、現在、ほとんどの学校に存在しない部活動を指す</small>	
ア 受け皿	バドミントンクラブ
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	市内中学校で <u>バドミントン部がある学校は4校</u> （女鳥羽、安曇、大野川、奈川）のみだが、多くの高校ではバドミントン部があり、部員数も多く、 <u>中学生の潜在的ニーズ</u> を想定
エ 指導者	地域の指導者
オ その他	休日に北部・南部の体育館で経験者及び初心者を対象に「バドミントン教室（仮）」（50回程度/年）を4月中旬から開始できるよう、現在調整中小学5・6年生では、平日・休日ともにやりたい種目の上位（アンケート結果から）
部活動指導員起点型（波田中合唱部、高網中女子バスケット部）	
ア 受け皿	部活動指導員が所属する団体等
イ 運営主体	地域クラブ
ウ 選定理由	すでに部活動指導員による <u>指導を受けている</u> 。 地域移行を前提とした <u>意欲的な新規指導者</u>
エ 指導者	地域の指導

地域移行モデルケースの進捗状況

1 学校丸ごと移行型(梓川中学校)

- (1) 受け皿 梓川少年スポーツ教室
(剣道、軟式野球、卓球、サッカー、バレー男女、バスケ男女、テニス)
- (2) 運営主体 梓川少年スポーツ教室
- (3) 活動状況

【剣道】

- ・指導者：牛田隆男さん 他
- ・活動の様子：毎週水、土曜日 19:00～21:00。梓川体育館。約30名が参加。保護者が当番制で会場や健康観察を行う。剣道人口が減っているが、多くの子どもたちが参加しているとのこと。小中学生が混じって練習。小さい子に配慮する年上の子どもの姿。声出しの練習ができていた。
- ・指導者から：(ア)他地区からの子どもも受け入れ可能。
(イ)市民祭には「梓川剣道クラブ」で参加。
(ウ)指導者は仕事の後なので、平日の夕方の練習の指導は難しい。【課題】



【卓球】

- ・指導者：丸山強さん 他
- ・活動の様子：毎週水、土曜日 19:00～21:00。梓川体育館。約30名(小学生を含む)が参加。卓球台15台に2人ずつで練習。送り迎えは保護者。当番で準備と見守り。地元高校生もお手伝いに来ることもある。
- ・指導者から：(ア)月2,000円を個人から徴収。指導者交通費、照明代、大会参加費を賄う。指導者はいるがマネジメントする人がいない。
(イ)指導者は無償。体育館の使用料は減免だが、照明代等がかさむ。
(ウ)練習会場(梓川体育館)が狭く、他地域からの受け入れについて多人数は難しい。本年度改修工事のため、練習場の確保が心配。【課題】
(エ)保護者の協力がなければやっていけない。クラブに入るときの条件。



【サッカー】

- ・指導者：藤井秀康さん 他
- ・活動の様子：休日には地域指導者も加わり、顧問とともにサッカーの練習や大会での指導を行っている。平日放課後も、スポーツ教室の地域指導者が3名位(コーチ内で担当を決めているとのこと)で学校で指導している。
- ・顧問から：(ア)地域移行の準備は、サッカーについては整っている。地域の方が常に指導に入っていただけのはありがたい。部活動が地域移行したら、地域指導者に任ずることができる。



【バレーボール(男子)】

【バレーボール(女子)】

- ・指導者：二村真光さん、赤堀さん、森山さん 他
- ・活動の様子：毎週水曜日 19:00～21:00。
第1,3,5土曜日午前。
第2,4日曜日午前。梓川中学校体育館を借用して練習。二村さん、赤堀さんともに30年近く、指導してきた実績あり。生徒は全員バレーボール部員。土日の大会や練習試合には同行していない。



・指導者から：

- (ア) 地指導者は会社勤めを終えて来るので、この時間は早められない。体育館開錠やネット設置は保護者が当番で行ってもらっている。
- (イ) 長く無償でやっているの、今後指導料等は考えていない。練習会場の借用料やクラブにかかるお金は保護者会費で賄っている。
- (ウ) 部活動の地域移行には賛成だが、中学校の先生が全然かわらなくなるのは困る。練習試合を組むことは一般の人にはできない。【課題】

【バスケットボール(男子)】

- ・指導者：二村喜子さん 他
- ・活動の様子：毎週金曜日 19:00～21:00。
第2,4土曜日午前。梓川中学校体育館を借用して練習
二村さんはミニバス(小学生男女)に継続して、中学生男子を指導。平日は顧問が指導し、休日はスポーツ教室で練習してきたが、2,3年の部員9名の内、教室に入っているのは1名のみ。6人は他クラブへ移籍。1年生は、まだどちらのクラブにも未加入。



・指導者から：

- (ア) 30年もバスケの指導にかかわってきたのに、こうなった(クラブ員がいなくなった)ことは寂しい。地域で教えるということは、単に技術の向上だけでなく、地域とのつながりや絆という意味がある。他のクラブは、この後継続していくのだろうか。(数年で終わってしまう心配もある) 今、一人しかいない。新入部員がクラブに来てくれたらいい。

【バスケットボール(女子)】

- ・指導者：岩原初美さん 他
- ・活動の様子：毎週金曜日 17:00～19:00。
第2,4土曜日午前。梓川中学校体育館を借用して練習
平日は顧問が指導し、休日は顔を出す程度。ただし金曜日は部活時間での活動はない。社会人となった G が指導の手伝いに来ることがある。



【軟式野球】

- ・指導者：未定
- ・活動の様子：土日曜日。梓水苑グラウンド(予定)
他校との合同部活の可能性あり。

【ソフトテニス】

・指導者：濱野憲吾さん 他

・活動の様子：日曜日 8:00～12:00。梓川中学校テニスコート。石井さん(他校教諭)が手伝いに来る。梓川中のテニス部全員がクラブ員ではない(半分程度)。小学生も参加。部活動とクラブの保護者会は分かれており、保護者会長や集金も別。クラブ費は月 500 円。規約では、梓川地区にいる子どもが入ることができるので、他地区の子どもの入会は、現在認めていない。



・指導者から：

(ア) ここでの指導が 5 年になる。他県出身だが、できるだけ協力していきたい。仕事が終われば平日の部活動にも顔を出したい。大会もコートに入って指導している。

2 複数学校の特定期競技移行型(軟式野球・女鳥羽中学校、清水中学校、山辺中学校)

(1) 受け皿 市域を 4 地区程度に分け、各地区のクラブチーム

(2) 運営主体 合同部活動から地域クラブへ

(3) 指導者 鳥羽秀行(地域指導者、部活動顧問)

(4) 活動状況

【軟式野球】

・現在の指導：宮澤教諭(女鳥羽中顧問)、山戸教諭(清水中顧問)、野崎さん(山辺地区)、山口さん(女鳥羽中保護者会)

・活動の様子：平日は山辺中(2 名)が清水中で部活動(委任指導)。休日は女鳥羽中、清水中、山辺中が合同で練習したり、大会に出場したりする。

・指導者から：(ア) 社会体育化もしくは拠点校部活になった場合、指導者や審判の謝礼等に費用がかかる。徴収するクラブ費が高額なる可能性も。備品や道具、練習環境にもお金がかかる。【課題】

(イ) 市教委 4 地区拠点校案は難しい。特に西部地区は合同になってもすぐに人数が減ってしまう。【課題】



(5) 他校の動き

・高綱中(2 名)、附属中(1 名)、秀峰中(1 名)が鎌田中へ委任指導。鎌田中は旭町中与合同部活。

・菅野中、筑摩野中でクラブ化の動き。指導者は地域の方や部活指導員を検討中。

3 少数部活動種目移行型（バドミントン）

- (1) 受け皿 地域クラブ
- (2) 運営主体 バドミントンクラブ(まつもと城東 BC)
- (3) 指導者 須藤憲一さん 他クラブの指導者
- (4) 活動状況

【バドミントン】

- ・指導 : まつもと城東 BC の日本スポーツ協会公認指導者
- ・実績 : 5/52 回開催 延べ 35 人参加 (5/26 現在)

・活動の様子:

(ア) 週 1 回、市内体育館(総合体育館、本郷体育館、南部体育館、寿体育館等)を利用してバドミントン教室を開催。主に初心者を対象に各回に参加費(保険代)を徴収して実施。バドミンントンの普及を目的とするが、さらに技術向上を目指す者は他の曜日の練習に移行していく。

(イ) 競技団体指導者ということで、競技性に特化して教えるイメージだったが、マナー指導(挨拶や練習態度、感謝の心等)による人間性、社会性の教育を含め、資格を持った指導者がきちんと教えている印象。

・保護者の声:

(ア) 今回のバドミントン教室をネットから知る。ホームページに申込書があった。子どもがバドミントンをやりたいと言っていたが、学校の部活動がなかったのでネットで探した。(部活の地域移行という意識での参加ではない)

(イ) 前は知らなかったので参加できなかった。総合体育館での開催であっても、(鉢盛中学区で遠いが)参加したい。

(ウ) 中学校の部活には入部しない予定(H中男)

(エ) 中学校の入部届の締め切りが早かったので、先日男子バスケットボール部に入部した。バドミントンもやりたいけれど迷っている。



4-1 部活動指導員起点型(合唱・波田中学校)

- (1) 受け皿 : 部活動指導員が所属する団体等
- (2) 運営主体 : 波田合唱クラブ
- (3) 活動状況

【波田中学校・合唱】

- ・指導者: 折橋章子さん(R4 部活指導員)、横内正さん(波田中合唱部顧問)

・活動の様子: 平日は中学校音楽室で部活動。土曜日は波田公民館大会議室等を利用して練習。大会前はアクトホールを使用することもある。現在、クラブは波田中学校の合唱部員のみ。

・指導者との懇談から:

(ア) 規約を作成し、近日中に保護者会を開催し、クラブへの移行について説明する予定。子どもたちへの説明(指導者は変わらないこと、休日の活動がクラブ活動になること、いずれ他校の生徒も加わることもあること等)は話してある。

(イ) クラブ費は当面徴収しない。保険料を集金し、保険をかける。

(ウ) 謝金の支払いについては、教育政策課で書類等整備。横内教諭は「兼業届」を学校支援室へ提出する。

(エ) 練習は公民館を使用していくが、学校の音楽室を借りる場合は外部団体と同じ手続きで借用する。



4-2 部活動指導員起点型(バスケットボール・高綱中学校)

- (1) 受け皿 : 部活動指導員が所属する団体等
- (2) 運営主体 : 波田中学校女子バスケットボール部 クラブ「オールウェイズ」
- (3) 活動状況

【高綱中学校・女子バスケットボール】

・指導者：武居伸侍さん(R5 部活指導員)

・活動の様子：通常の部活動を行う。クラブ登録をバスケットボール協会にはすでに提出済み。クラブへの移行は、中体連の大会終了後(三年生引退)に考えている。

・指導者との懇談から：

(ア) 顧問はバスケットボール未経験のため、できるだけ放課後練習にも来たい。

(イ) 都市大塩尻高校のバスケットボール部にもかかわっているが、本年度は中学生の指導に重点を置きたい。強いチームを求めらるのではなく、バスケットボールの楽しさを広めたい。他校からの受け入れも可能。

(ウ) 現在、他クラブに加入している生徒が2名いる。中体連に参加できるチームから出場することを希望しているので、各個人が出場チームを決める方向。



休日部活動の地域移行スポーツ競技団体取組状況

別添4

競技団体	取組状況	今後の課題
陸上競技	<ul style="list-style-type: none"> ・市内4～5ブロックに分けて合同練習会を実施 ・各ブロック、学校顧問が責任者となり、地域指導者が継続的ではなく臨時的に指導 ・種目ごとの合同練習を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れできないクラブが少なく、顧問主導で動いているため、部活動の域から出られないのが現状 ・指導者の質・量の確保 ・指導者手当 ・保護者負担の増
ソフトテニス	<ul style="list-style-type: none"> ・学校顧問が中心となり、既存の朝日クラブ、梓川少年スポーツ教室に加え、S-4、高綱クラブ、RSCソフトテニスクラブの3クラブを立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブの継続性、小学6年生への情報提供・宣伝活動 ・指導者、会場の確保 ・クラブ移行による競技人口減少の可能性
バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・市内を4つ（東部、西部、南部、北部）に分けた拠点校部活動を実施 ・拠点校部活動の地域クラブ移行への準備 ・バレーボール教室を廃止し、「やまびこクラブ」（体験・普及型）と「CLUB MATSUMOTO」（強化型）を立ち上げ（予定） ・「CLUB MATSUMOTO」会費：2,000円/月 保険料：1,450円/年 ・小中高指導者の交流、教員と協会の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保（ミニバス指導者や大学との連携） ・指導の一貫性 ・指導者手当
バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム参加型のバスケットボール教室を、個人参加型へ変更 ・休日1～2回/月、参加費：200円/回 市内中学校体育館5会場同時開催を予定 ・R4実績：12～3月に3会場同時開催を3回実施 教室申込者数：約130人 ・指導者の募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブごとと性質が違うので統一したルールをつくるのが困難 ・ハード（地域の体育館、卓球台の数）不足
卓球	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校ごと地域の受入れ先の整理を検討 ・筑摩野クラブ、LINKSの2クラブを立ち上げ 今後さらに推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブの設立、マネジメント等をややる人材の確保 ・指導者の確保
軟式野球	<ul style="list-style-type: none"> ・合同部活動を実施している学校をベースに、距離が近い枠組みで合同部活動から始める予定 出来ることからクラブへ ・モデルケースとして女鳥羽中、清水中、山辺中をクラブ化へ ・部活動のない学校の生徒も参加可能な形でのクラブ化を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・中体連登録とクラブ登録のすみ分け ・新たなクラブ立ち上げの条件（規約、保険、指導者、運用、会場、用具等）のクリア ・部活動（顧問）とクラブの指導者相互の情報共有 ・顧問が兼業しない場合の人材確保
サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・高綱学区少年チーム「エステイロ」との連携組織を立ち上げ予定 ・学区型…菅野中、信明中のサッカー部を廃部。新たに「菅野FC（仮称）」を立ち上げ予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の質・量の確保 ・参加者の増加 ・バドミントン教室の周知
バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない部活動種目移行型のモデルケースとして、地域クラブ「まつもと城東バドミントンクラブ」が運営主体となり、休日のバドミントン教室を実施 ・土曜日52回/年(予定)、参加費：530円/回(保険料込) ・信州大学バドミントン部との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の確保 ・スポーツ保険加入 ・保護者の送迎
剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活のある学校で合同練習から始められれば 	
各競技団体からの意見・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の方向性やスケジュールについて明確にして欲しい。（具体的なイメージを） ・生徒、保護者にとっても流れが不透明。早めに説明をして欲しい。 ・指導者手当等の活動資金は、参加者負担だけでは難しい、現行の部活動手当を活用するように県へ働きかけて欲しい。 ・学校施設を優先的に使用できるように制度設計を構築して欲しい。 	

令和4年度

部活動の地域クラブ活動への 移行に係る調査

結果の概要



「やってみたい！」プロジェクト

子どもの

を応援する ガクトまつもと

令和5（2023）年4月

松本市教育委員会

1 調査目的

本調査は、部活動の地域クラブ活動への移行を受けて、スポーツや文化の活動を「やってみたい」と考えている子どもを応援するための制度を整えるためにニーズを把握することを目的とする。

2 調査時期

令和4（2022）年12月

3 調査対象者・分析対象者

所属	調査対象者（名）	分析対象者（名）	有効回答率（%）
小学5・6年生	3,746	3,031	80.9
中学1・2年生	3,894	2,922	75.0
中学3年生	2,003	1,361	67.9
小学5・6年生保護者	3,746	1,274	34.0
中学生保護者	5,897	1,518	25.7
中学校教員	545	204	37.4

4 調査方法

QRコード又はURLからリンクされた調査に、オンライン上で回答を求めた。

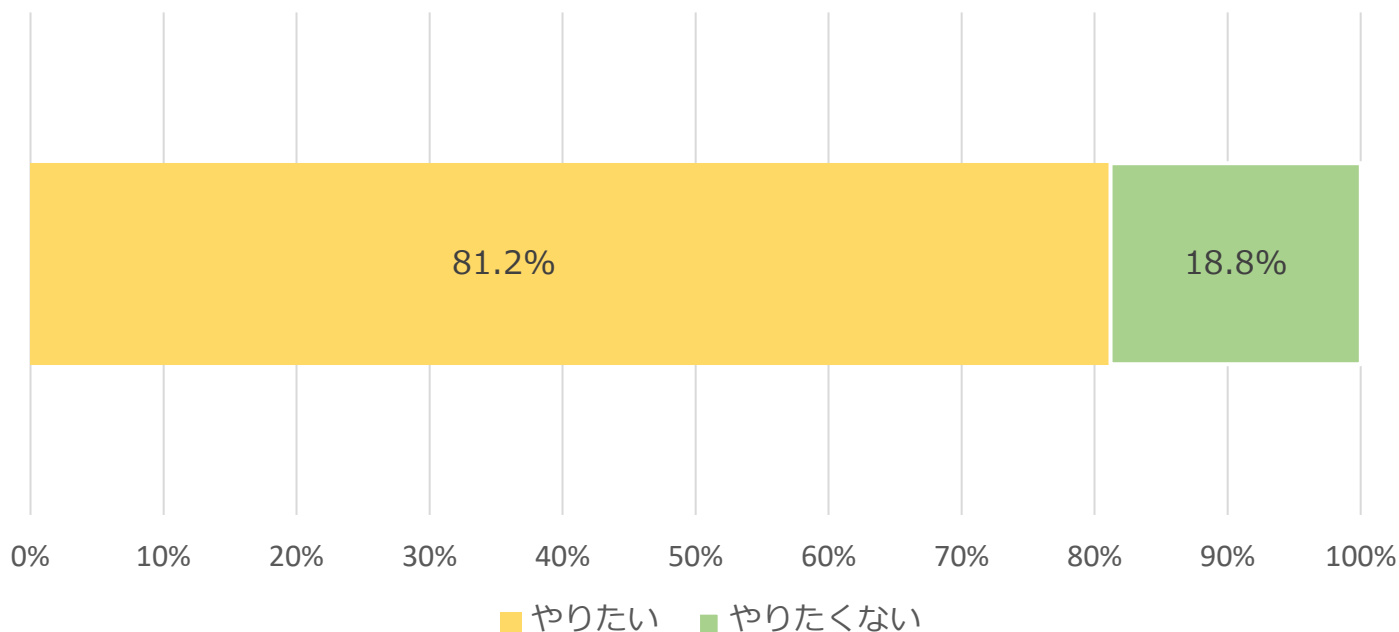
5 留意点

- 1) 調査結果は小数点第1位までの表記となり、この合計は必ずしも100%ではない。
- 2) 調査項目は、見やすさの観点から簡略化して表記している箇所がある。
- 3) 項目の上位を表示する場合、4件法の場合は、項目文を肯定する回答の割合の和の上位を記している。
たとえば、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合の和を上位としている。

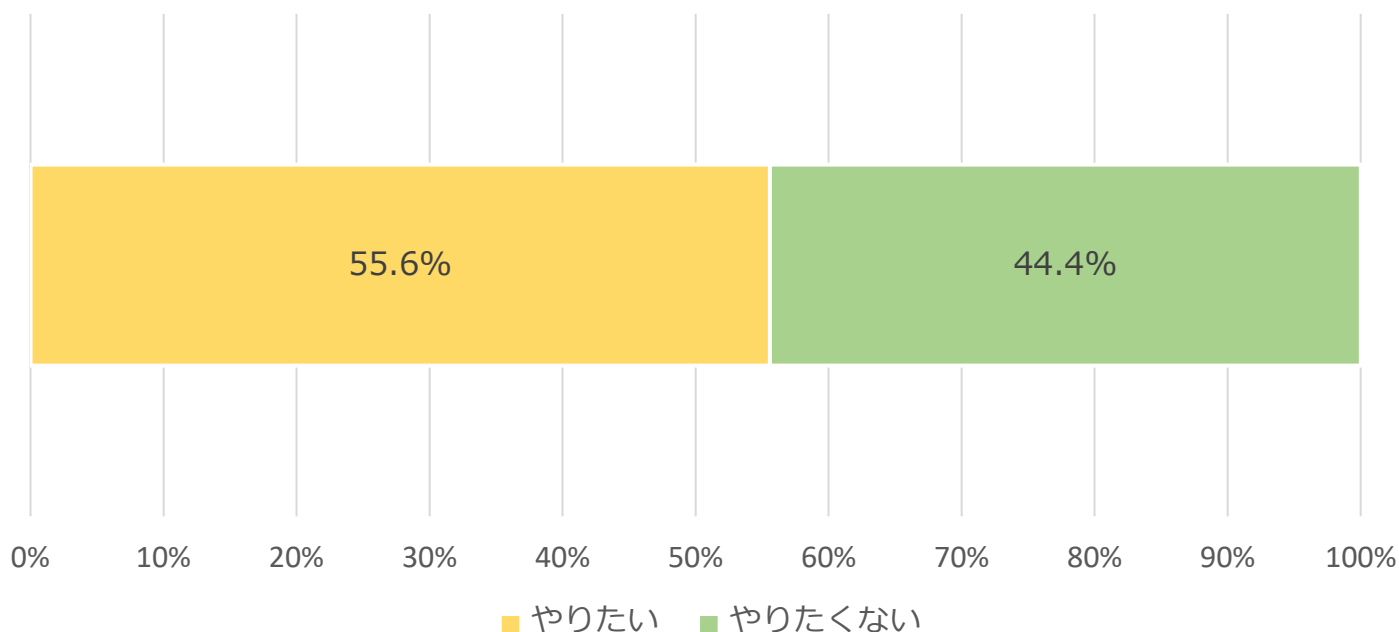
小学5・6年生

小学5・6年生

中学校の部活動が地域クラブ活動に移行した後の
「平日」のスポーツや文化活動の実施希望

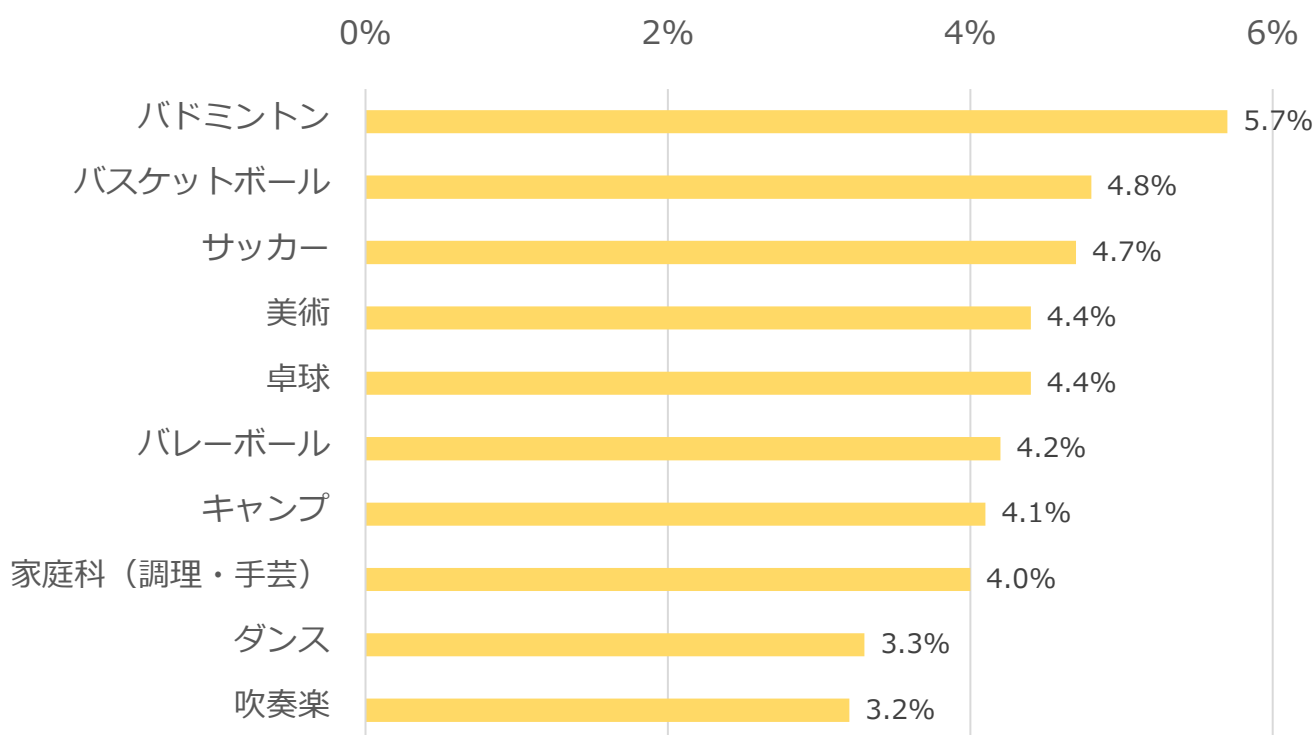


中学校の部活動が地域クラブ活動に移行した後の
「休日」のスポーツや文化活動の実施希望

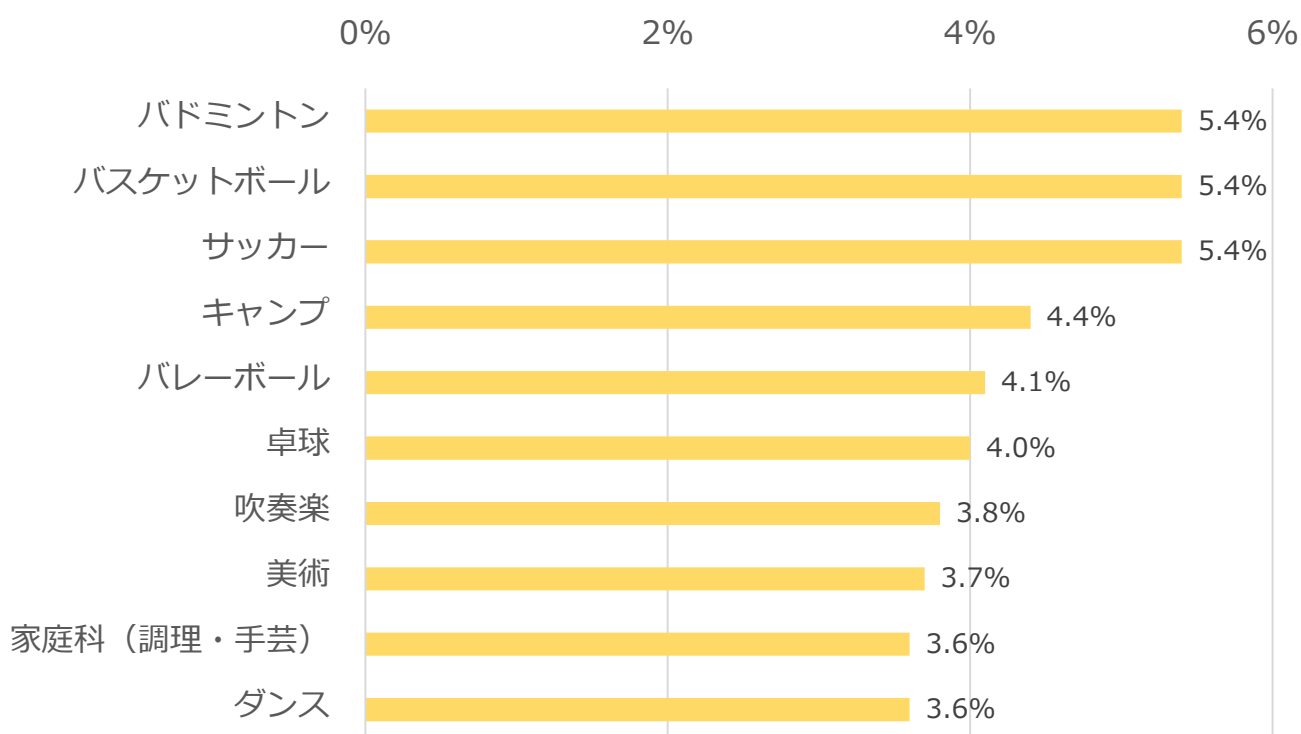


小学5・6年生

「平日」にやってみたいスポーツや文化活動 トップ10

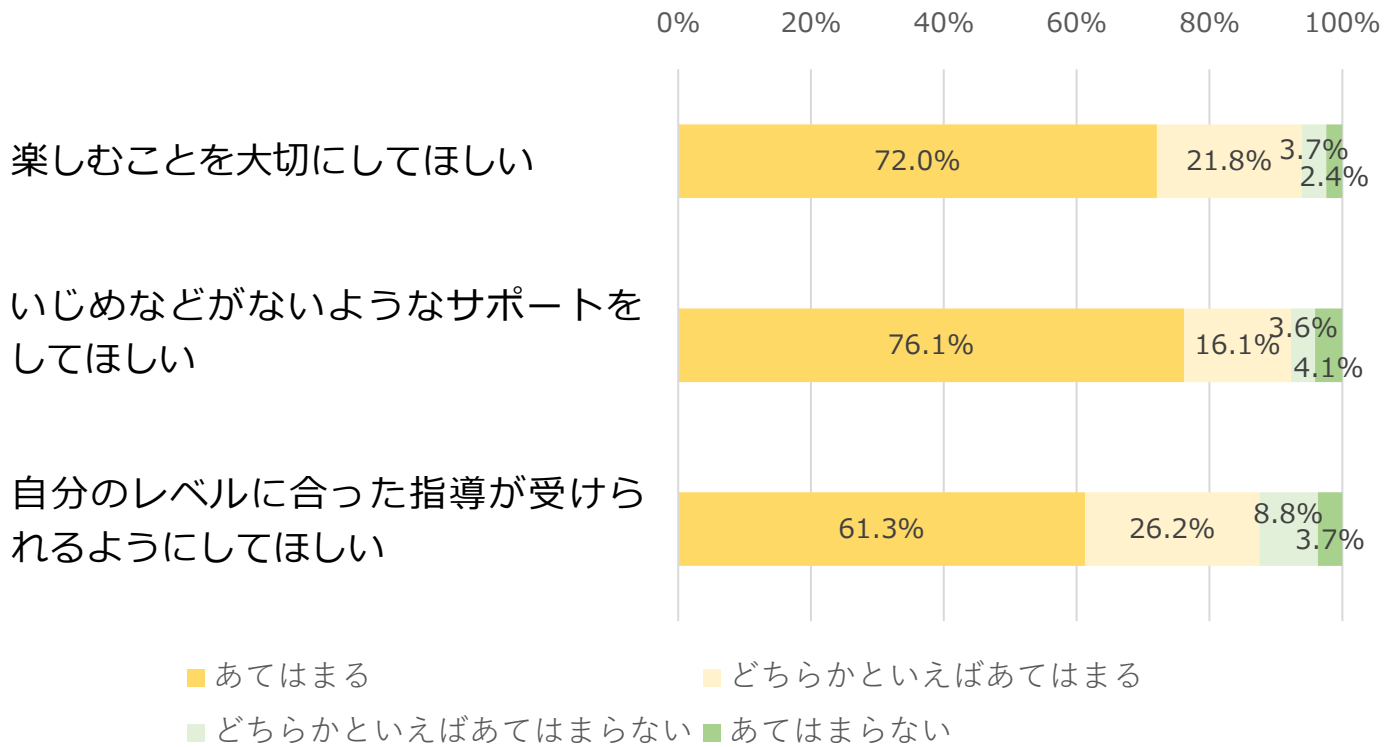


「休日」にやってみたいスポーツや文化活動 トップ10

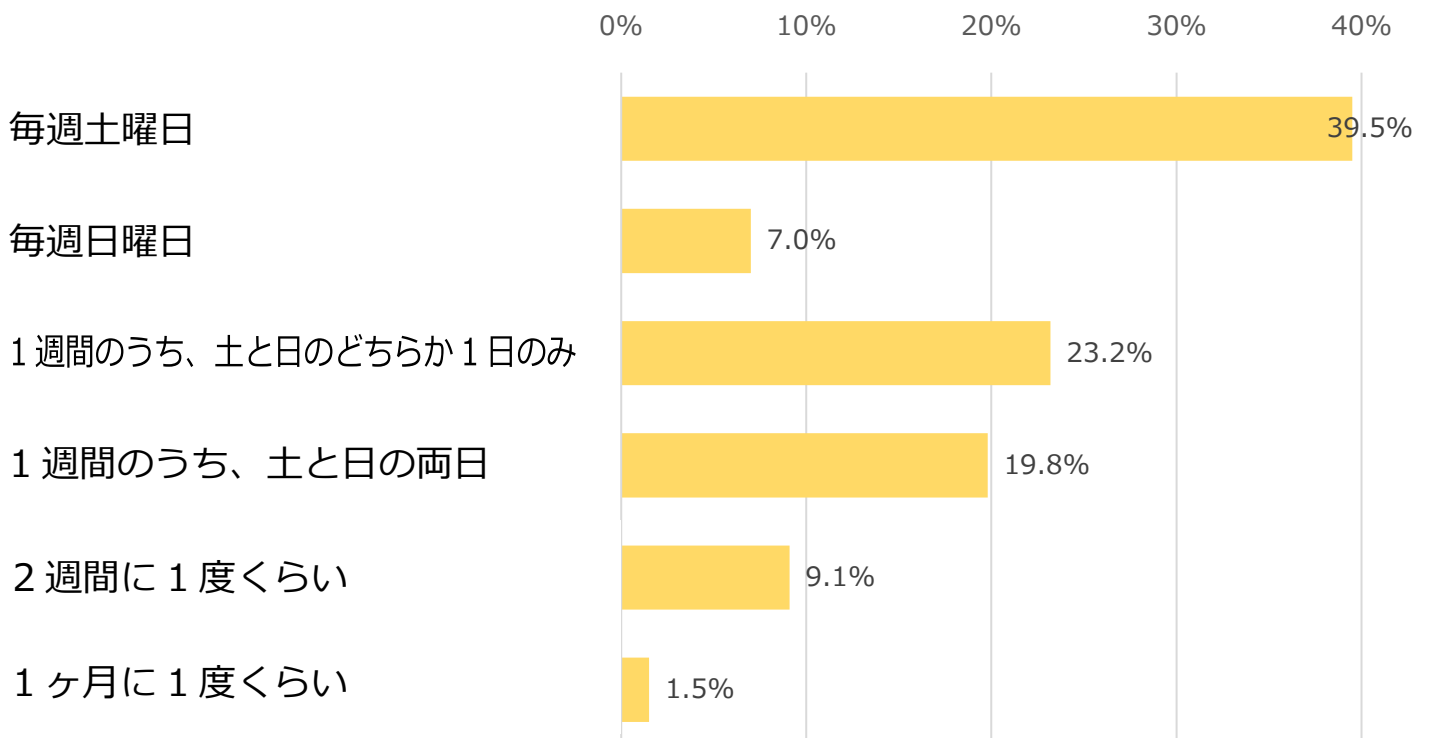


小学5・6年生

地域クラブ活動に望むこと トップ3



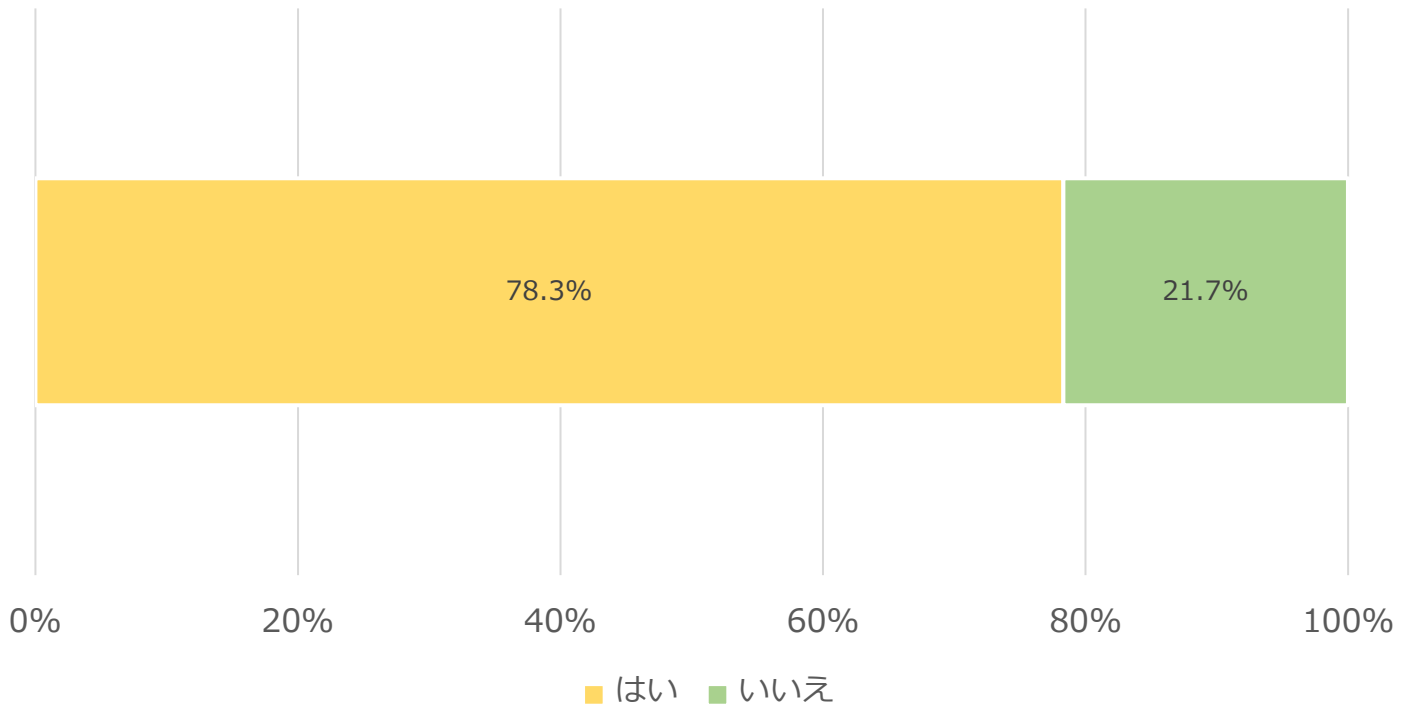
休日の地域クラブ活動の希望実施頻度



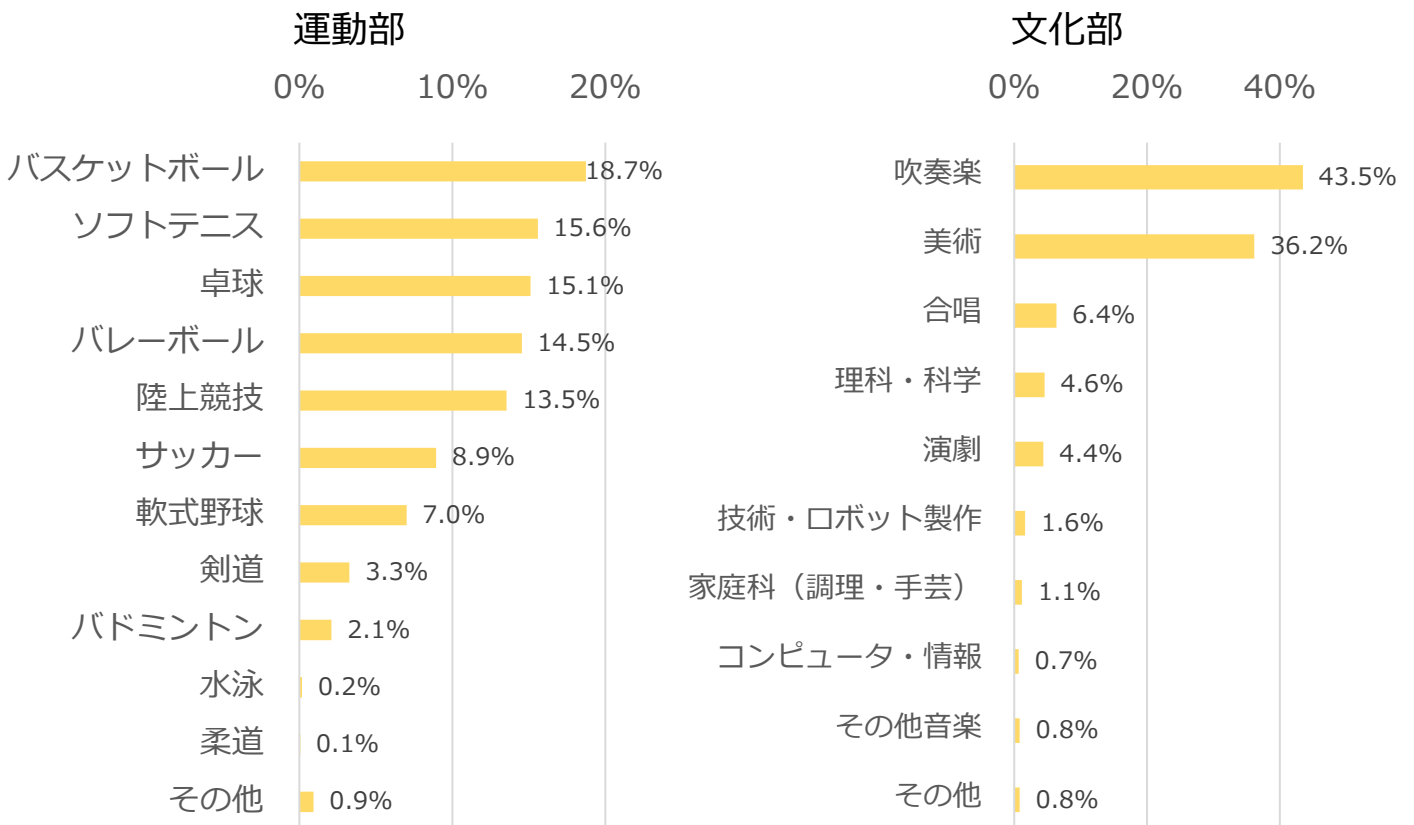
中学1・2年生

中学 1・2 年生

中学でやってみたい部活動はあった？

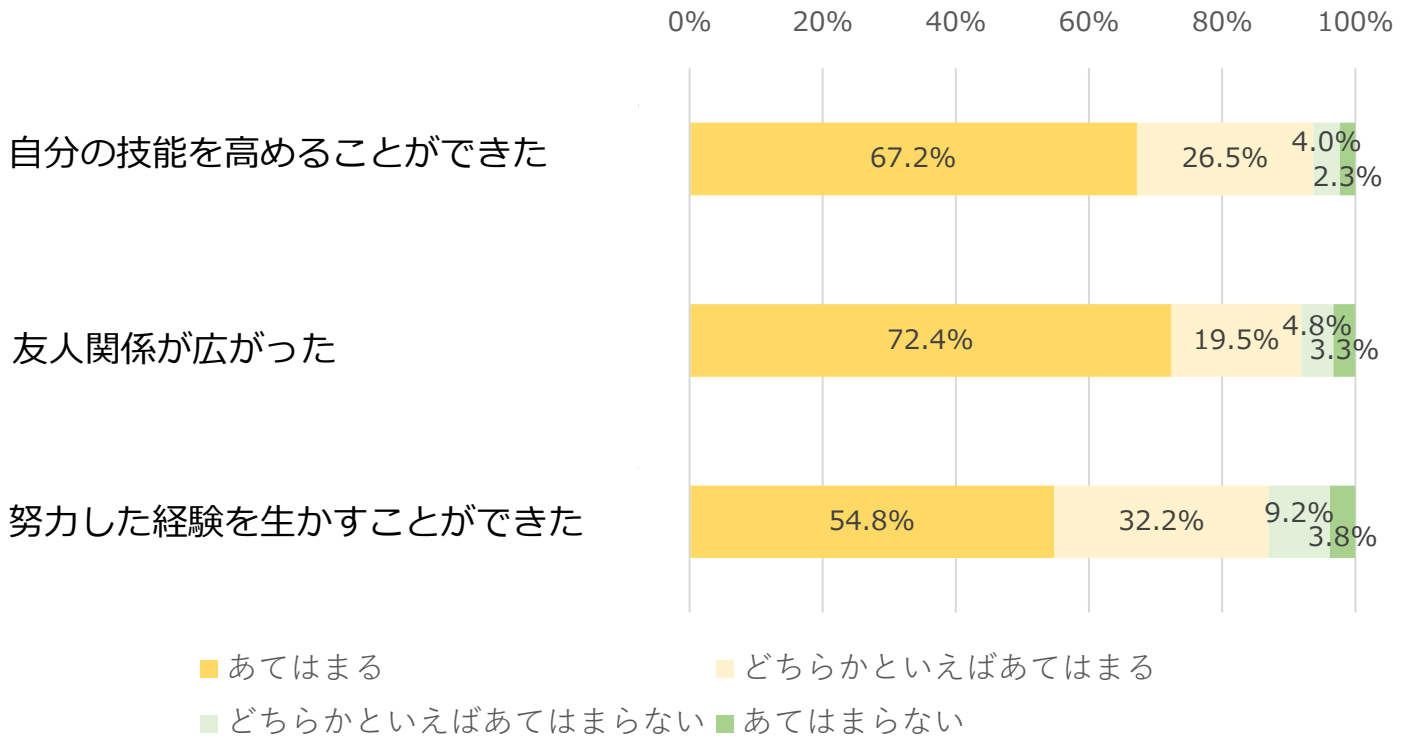


所属部活動

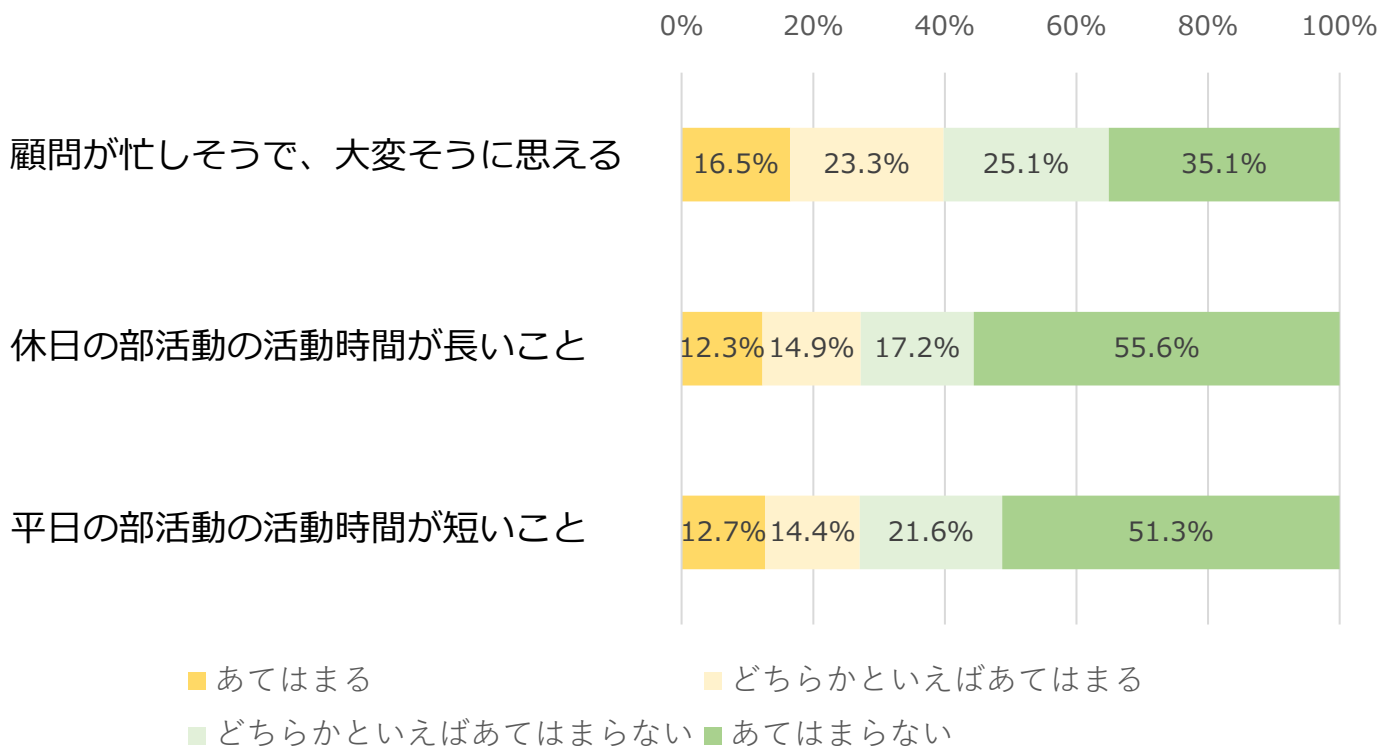


中学 1・2 年生

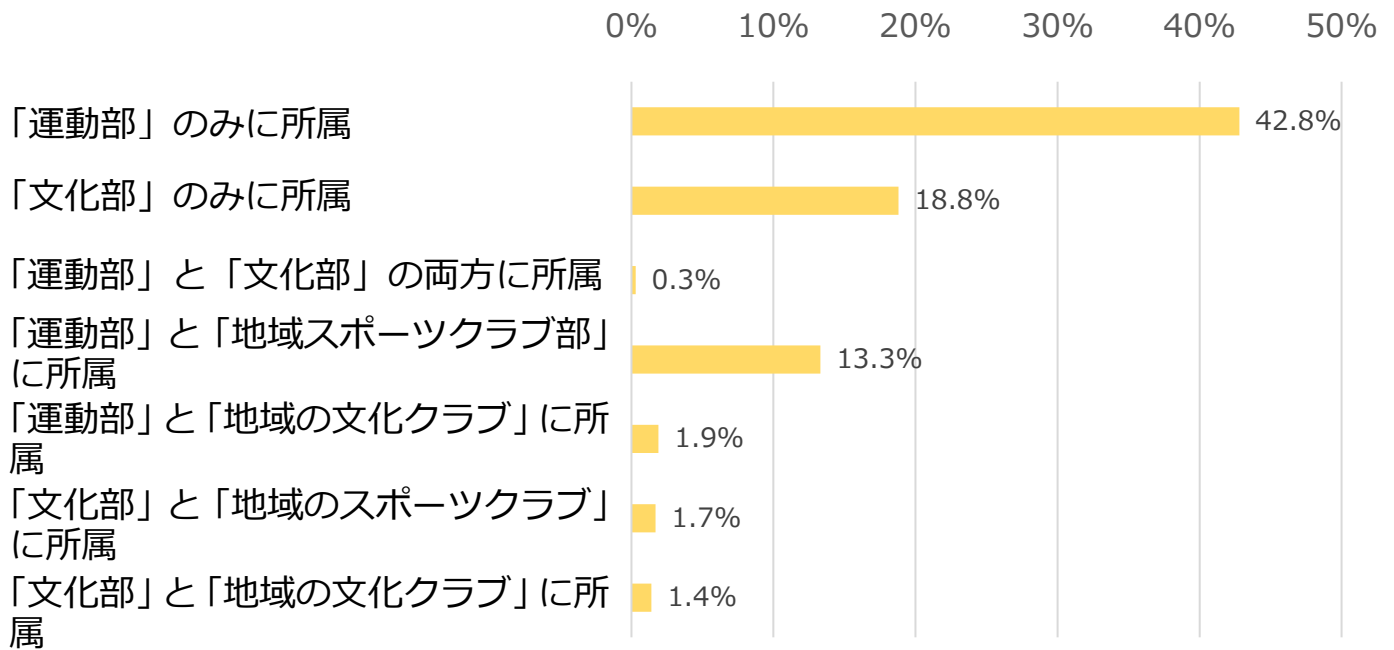
部活動に取り組んで「良かった」こと トップ3



部活動で改善が必要と感じること トップ3



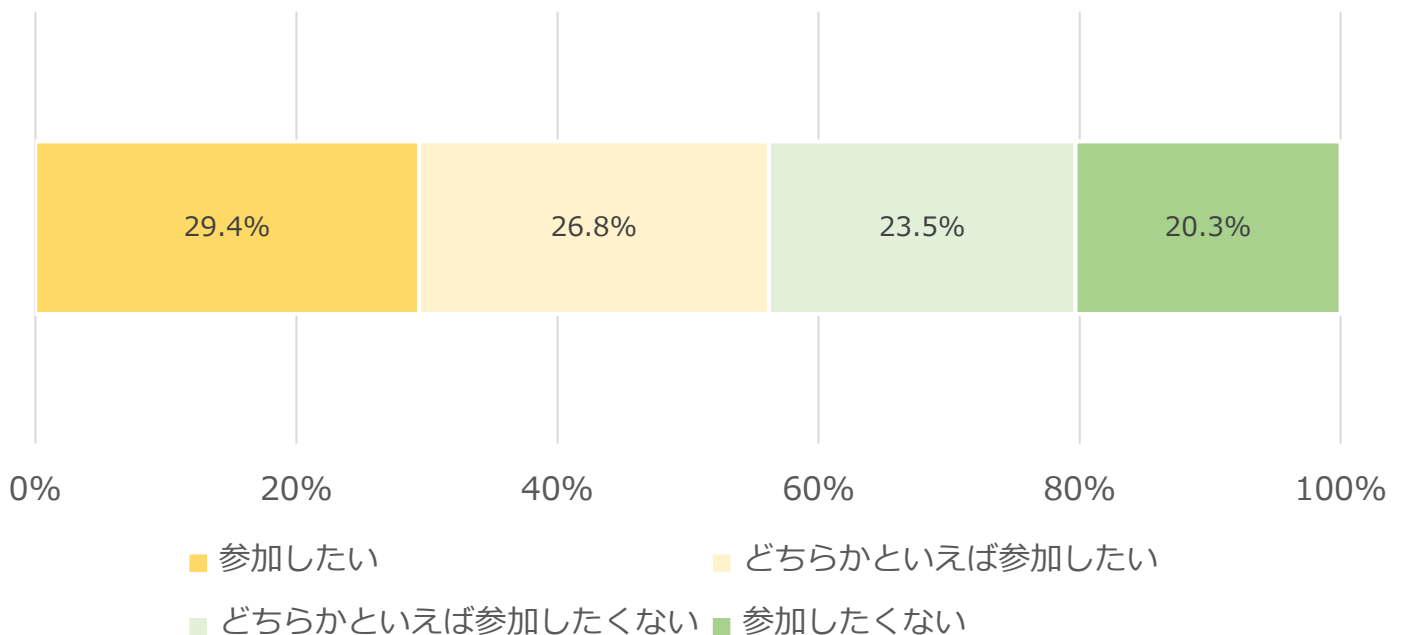
部活動への加入率



注) 地域スポーツクラブ、あるいは地域の文化クラブのみに所属している者、及びどこにも所属していない者等を含めた割合を 100%としている。

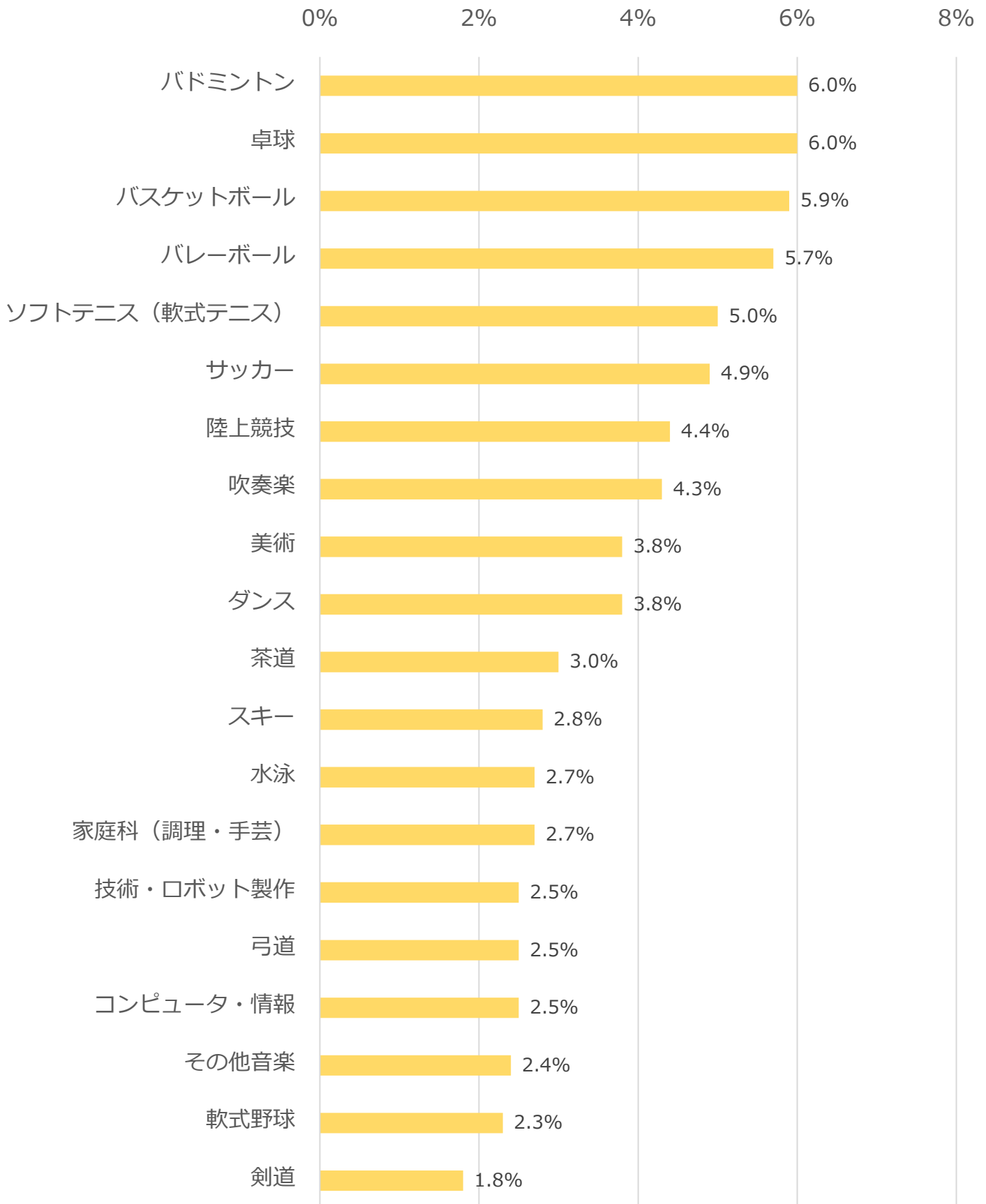
中学校の部活動が地域クラブ活動に移行した後の

「休日」のスポーツや文化活動の実施希望



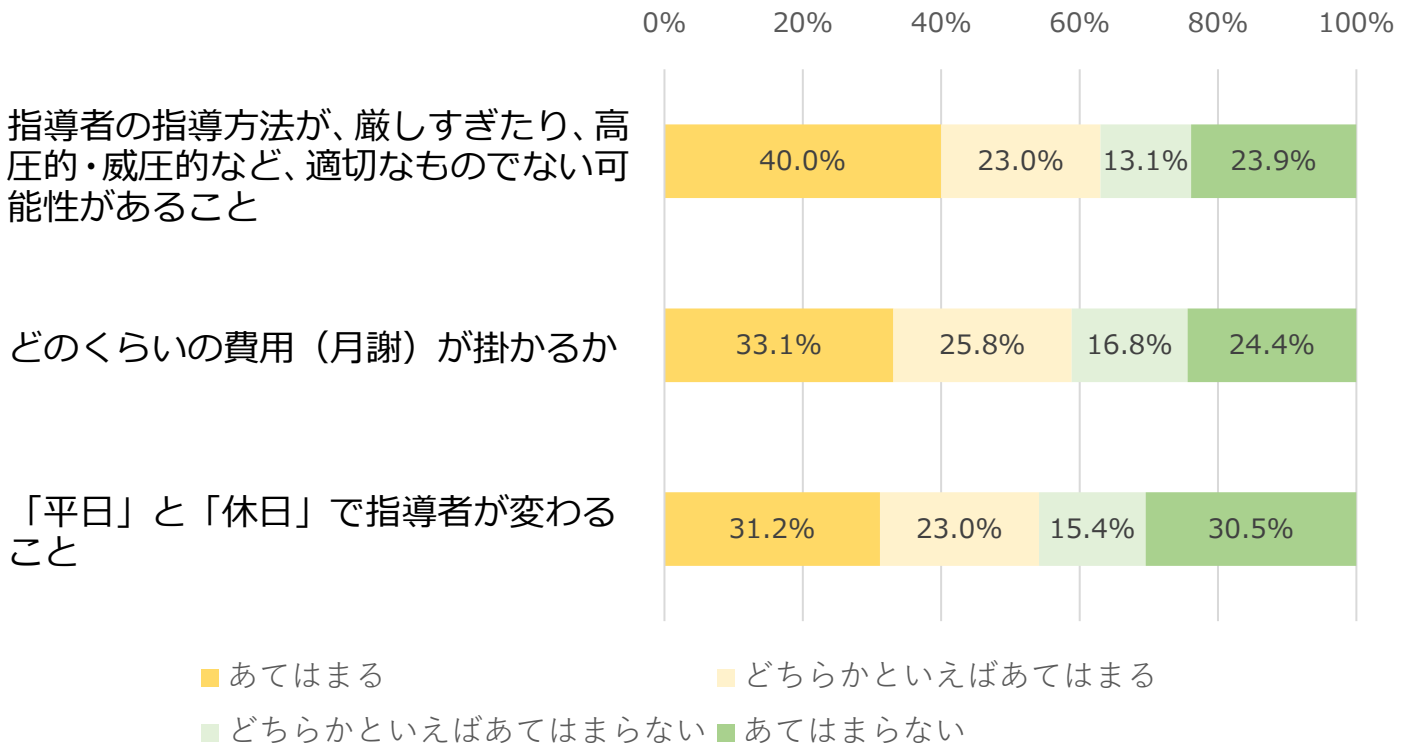
中学 1・2 年生

「休日」にやってみたいスポーツや文化活動 トップ 20

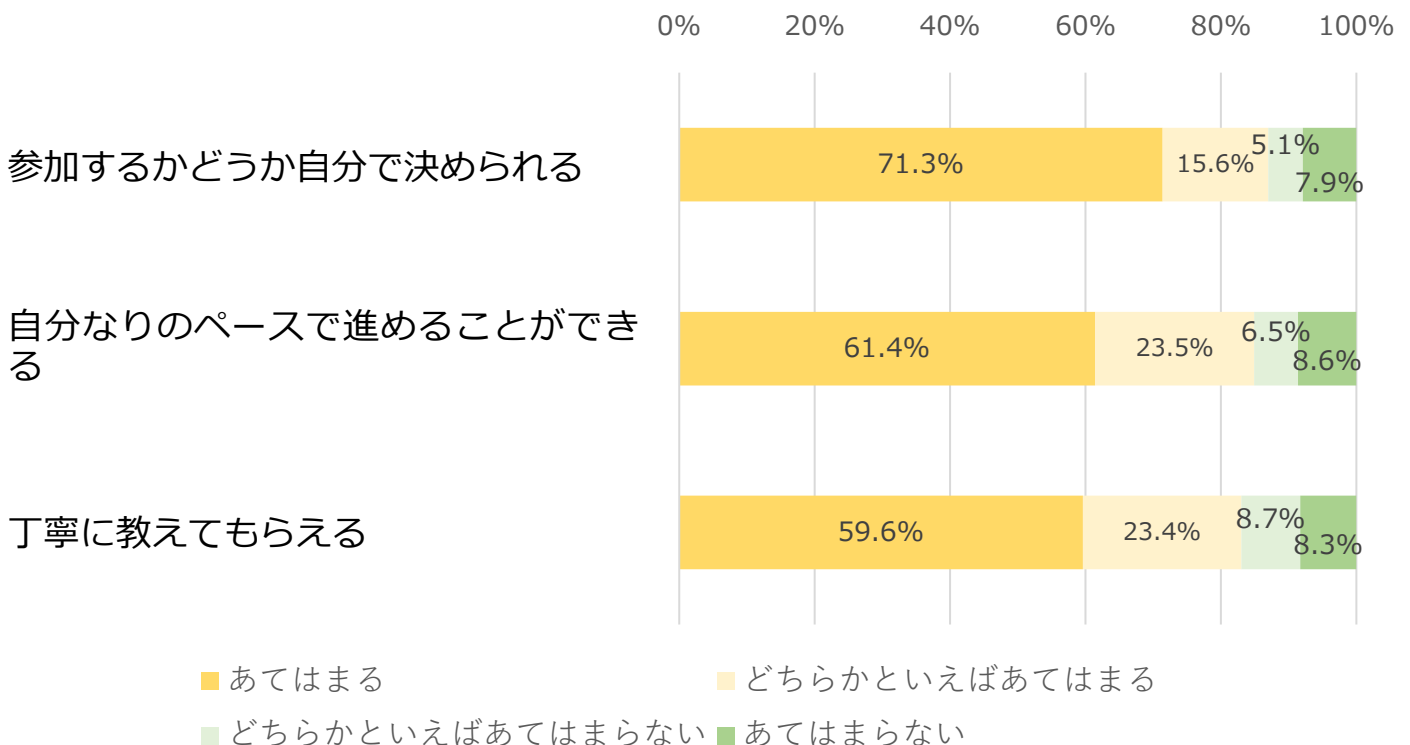


中学 1・2 年生

地域クラブ活動への加入に伴う心配 トップ3



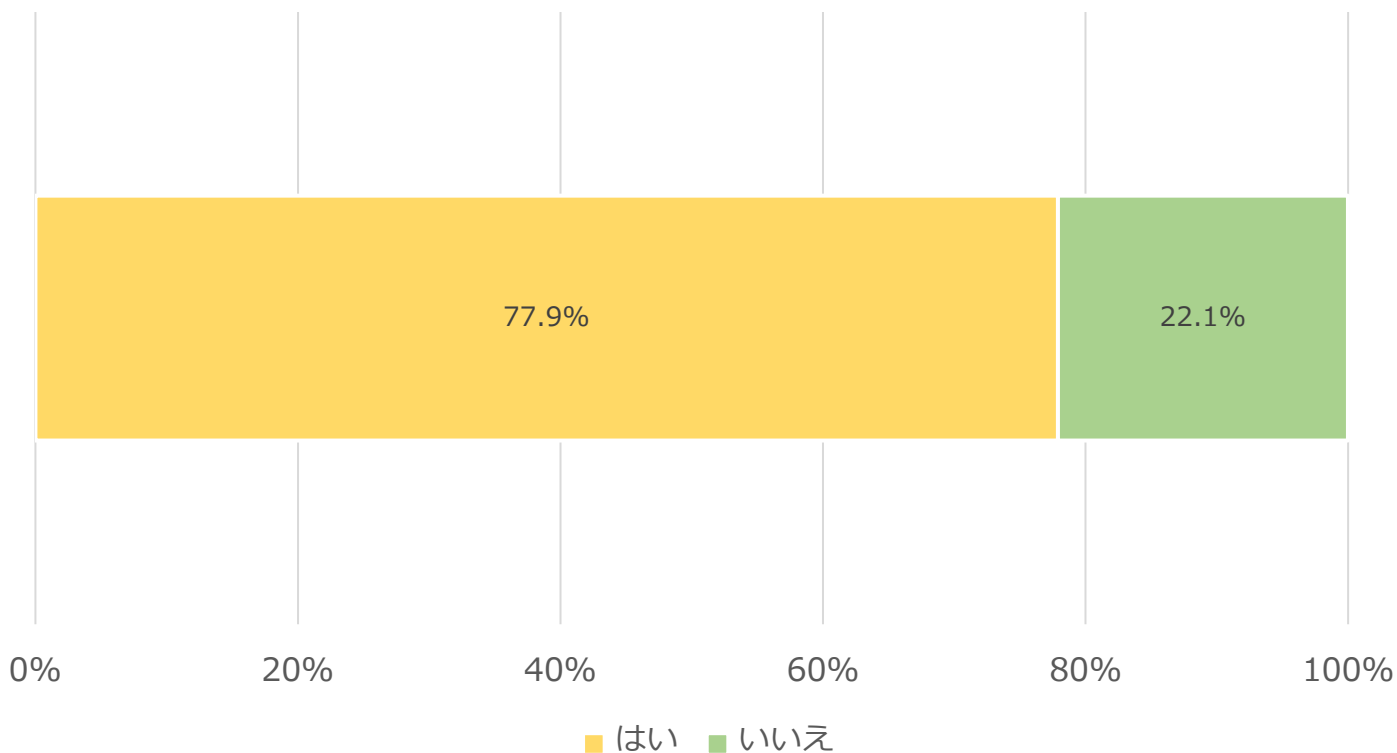
こんな地域クラブ活動であれば参加したい トップ3



中学3年生

中学3年生

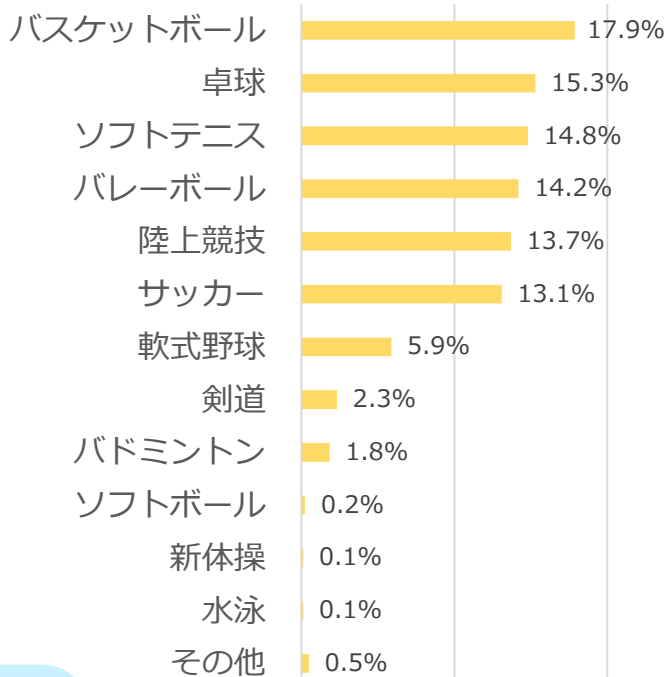
中学でやってみたい部活動はあった？



所属部活動

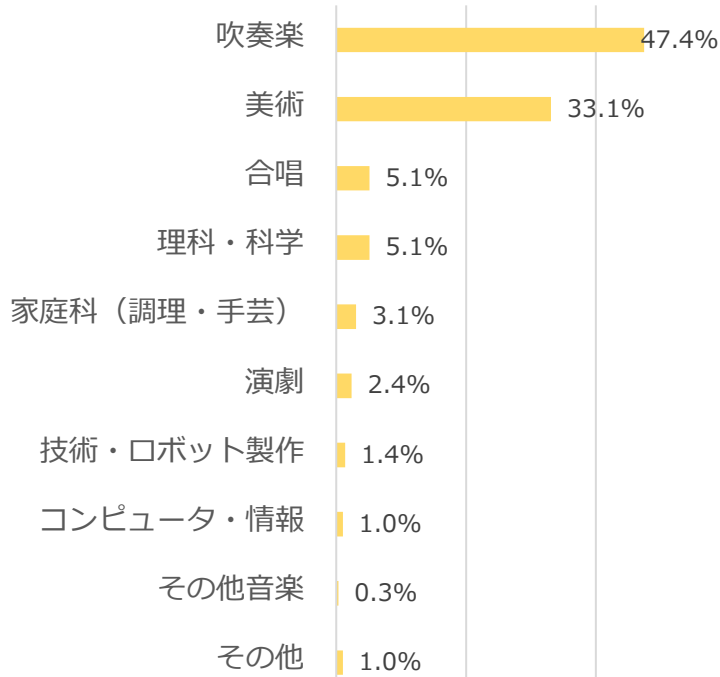
運動部

0% 10% 20%



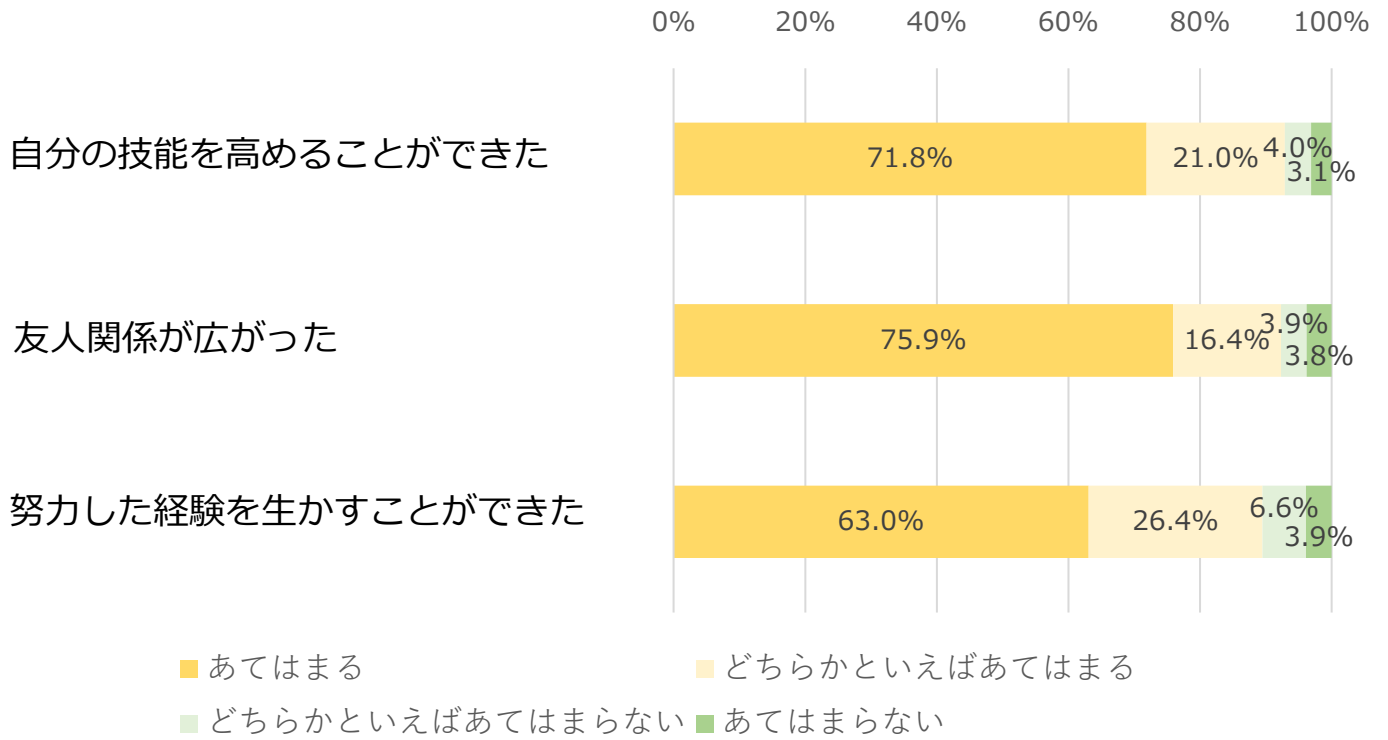
文化部

0% 20% 40%

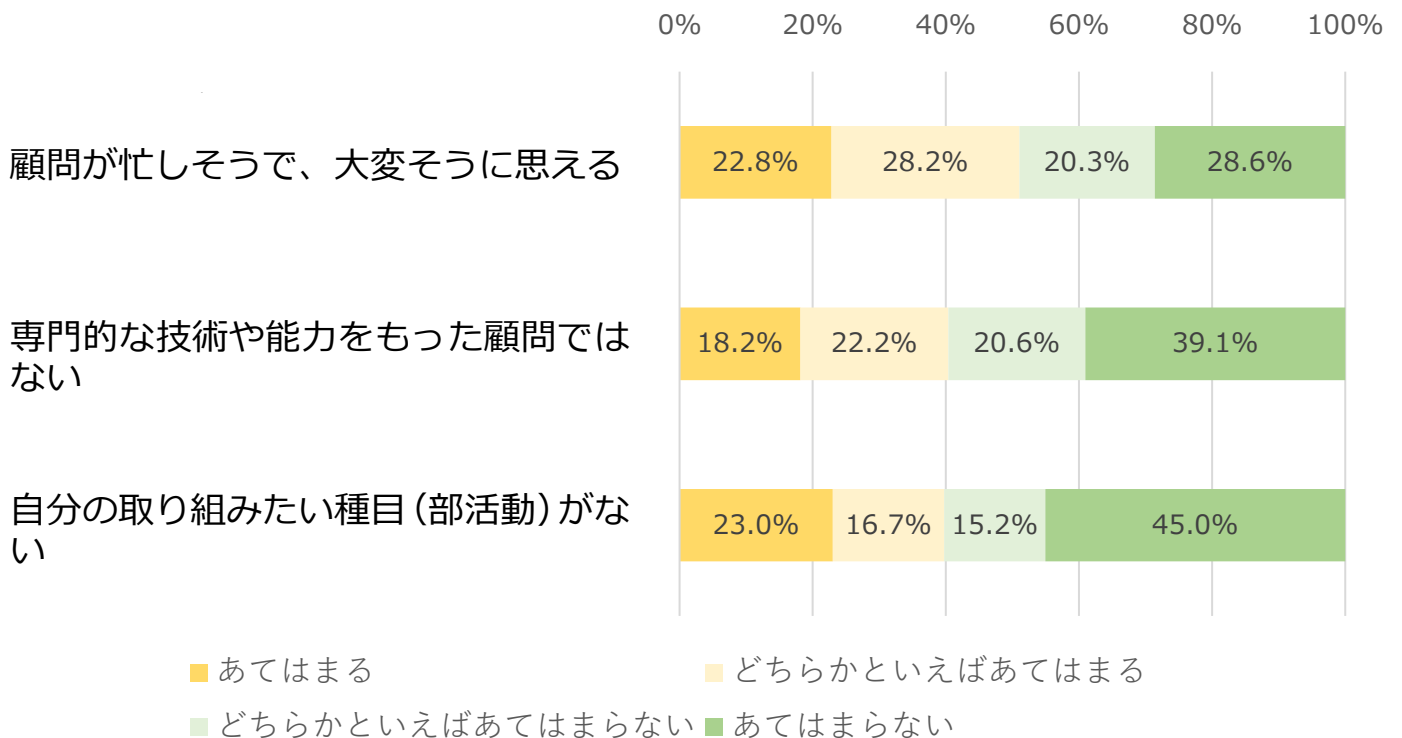


中学3年生

部活動に取り組んで「良かった」こと トップ3

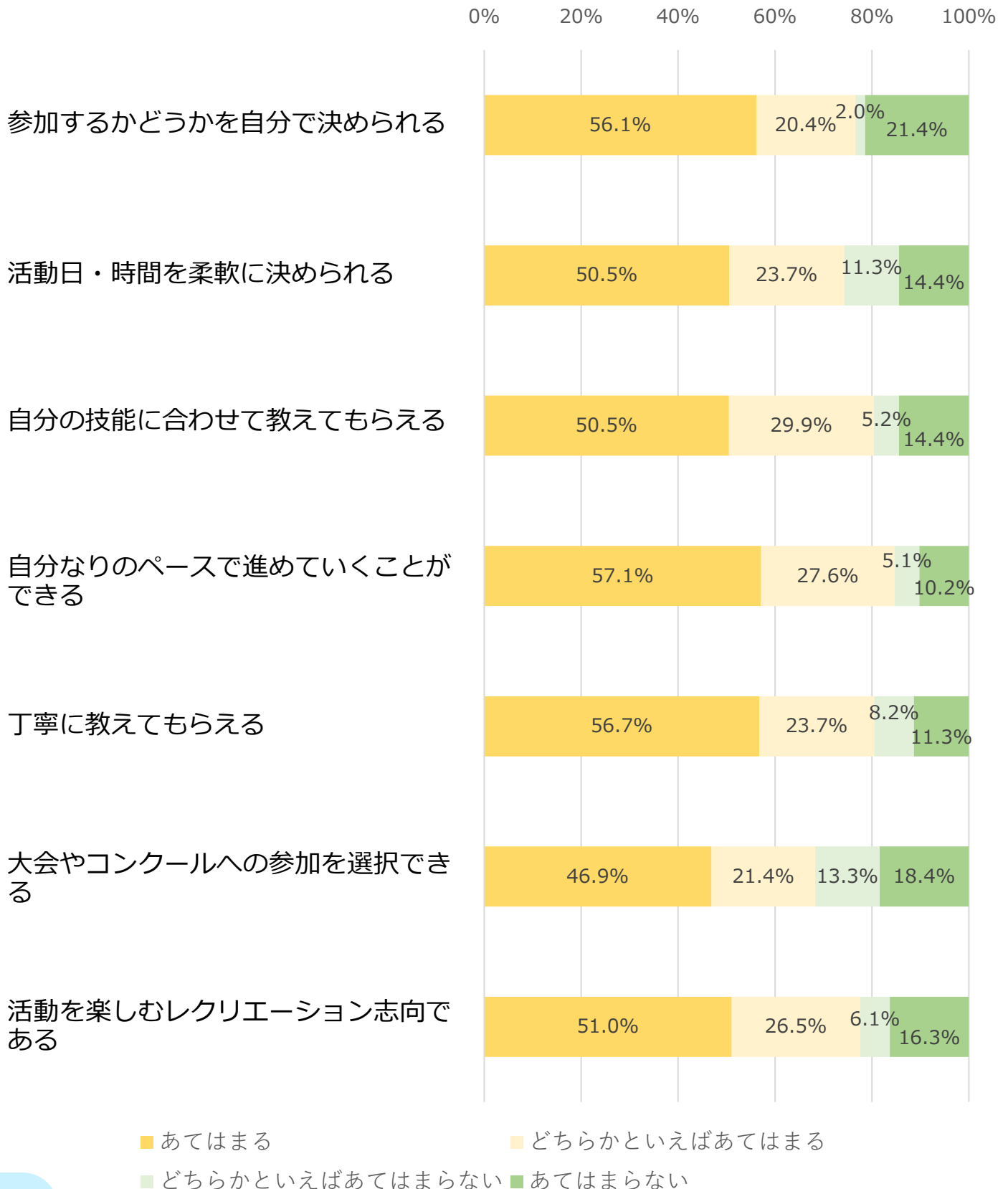


部活動で改善が必要と感ずること トップ3



中学3年生

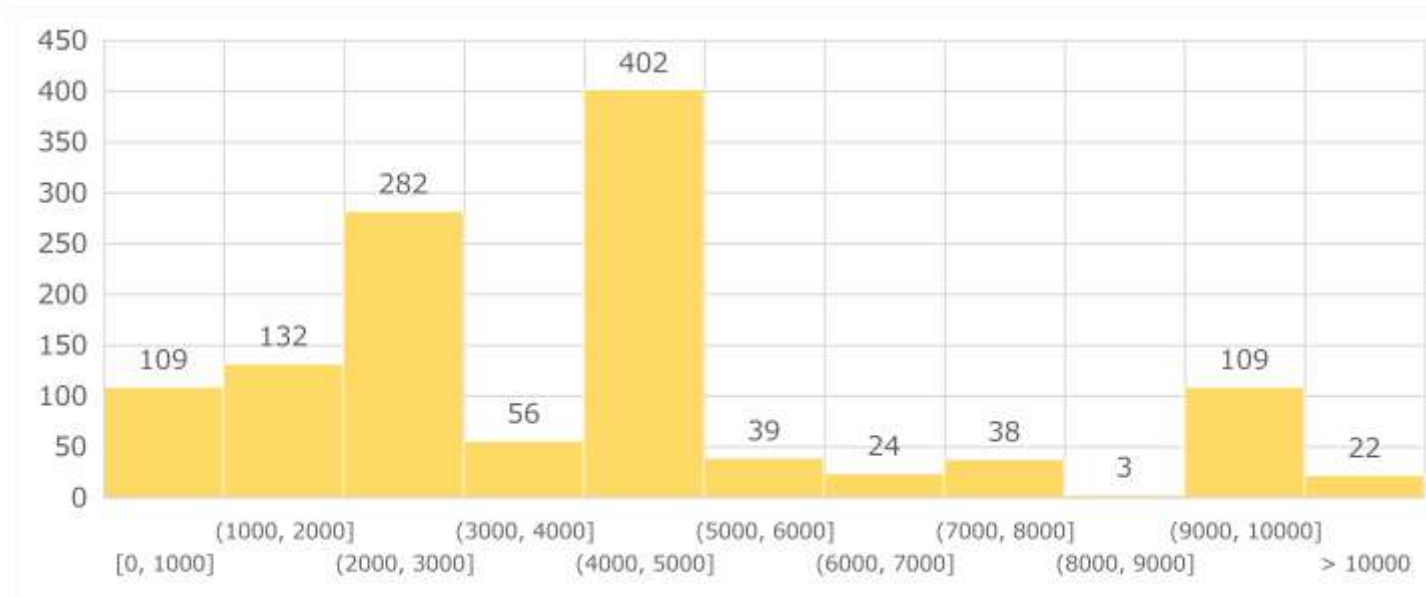
現在スポーツや文化活動をやっていない生徒が 新たな地域クラブ活動に望むこと



小学5・6年生保護者
中学生保護者

小学5・6年生保護者

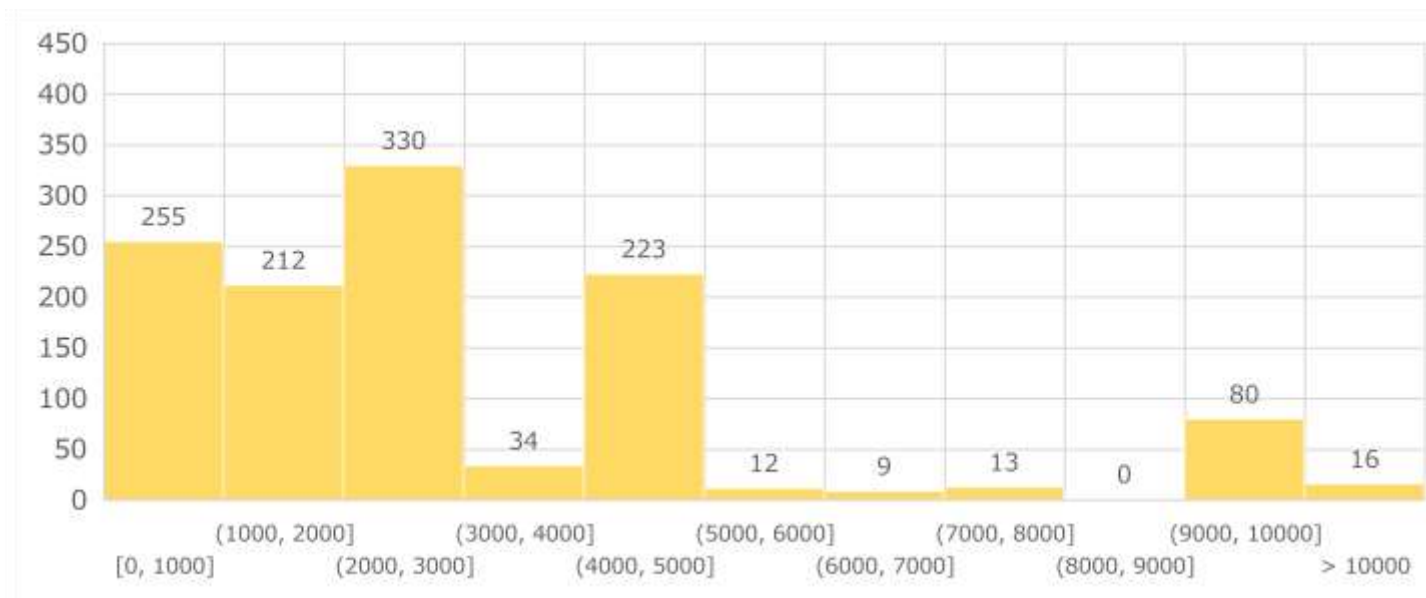
地域クラブ活動移行に伴って月謝が必要となる場合の
許容できる金額



平均値	4715.3	標準偏差	3829.2	中央値	5000
-----	--------	------	--------	-----	------

中学生保護者

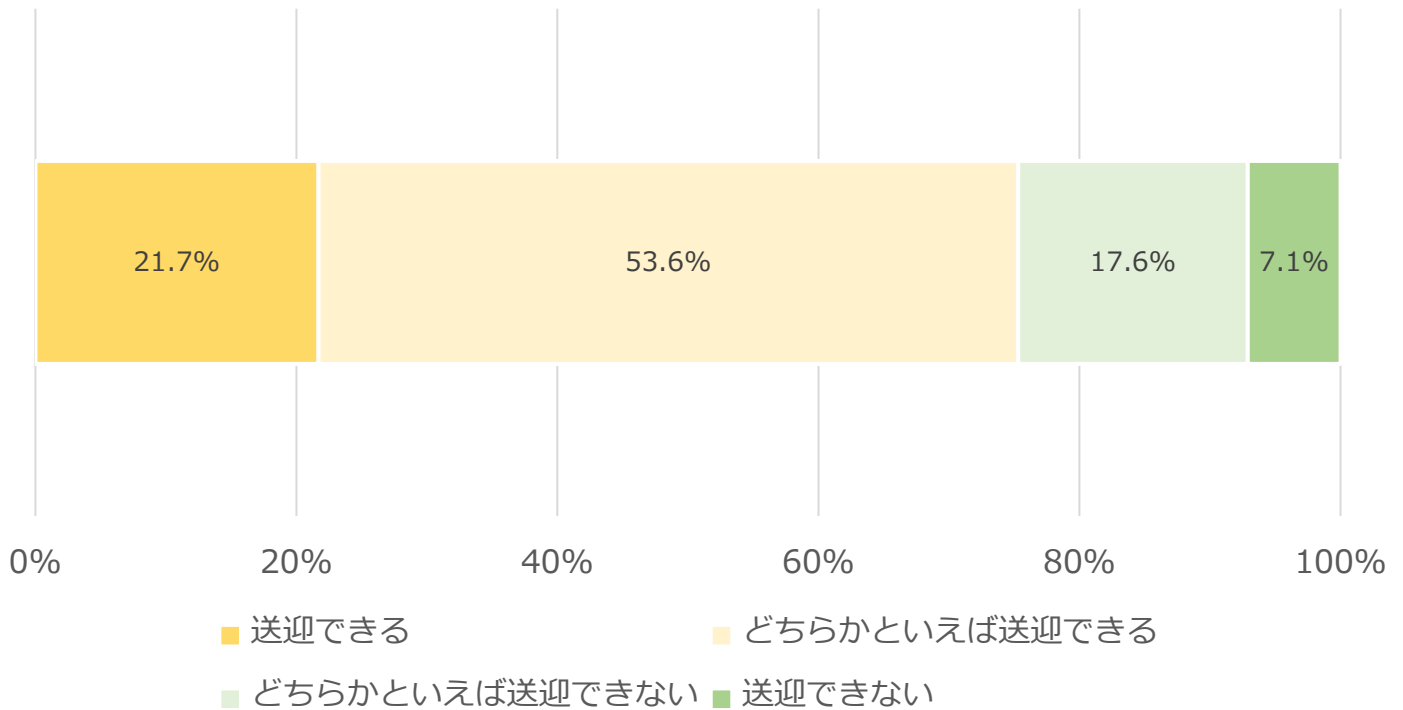
地域クラブ活動移行に伴って月謝が必要となる場合の
許容できる金額



平均値	3605.6	標準偏差	3507.8	中央値	3000
-----	--------	------	--------	-----	------

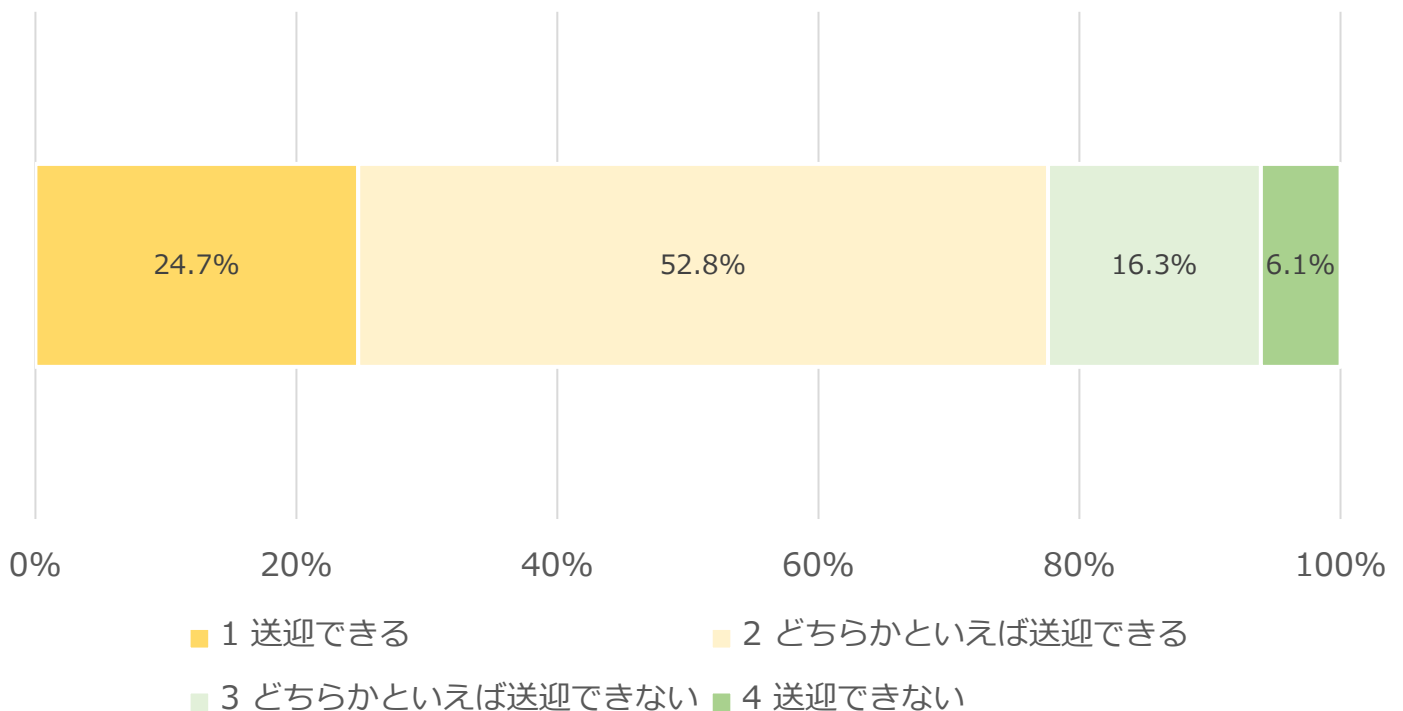
小学5・6年生保護者

地域クラブ活動への送迎の可否



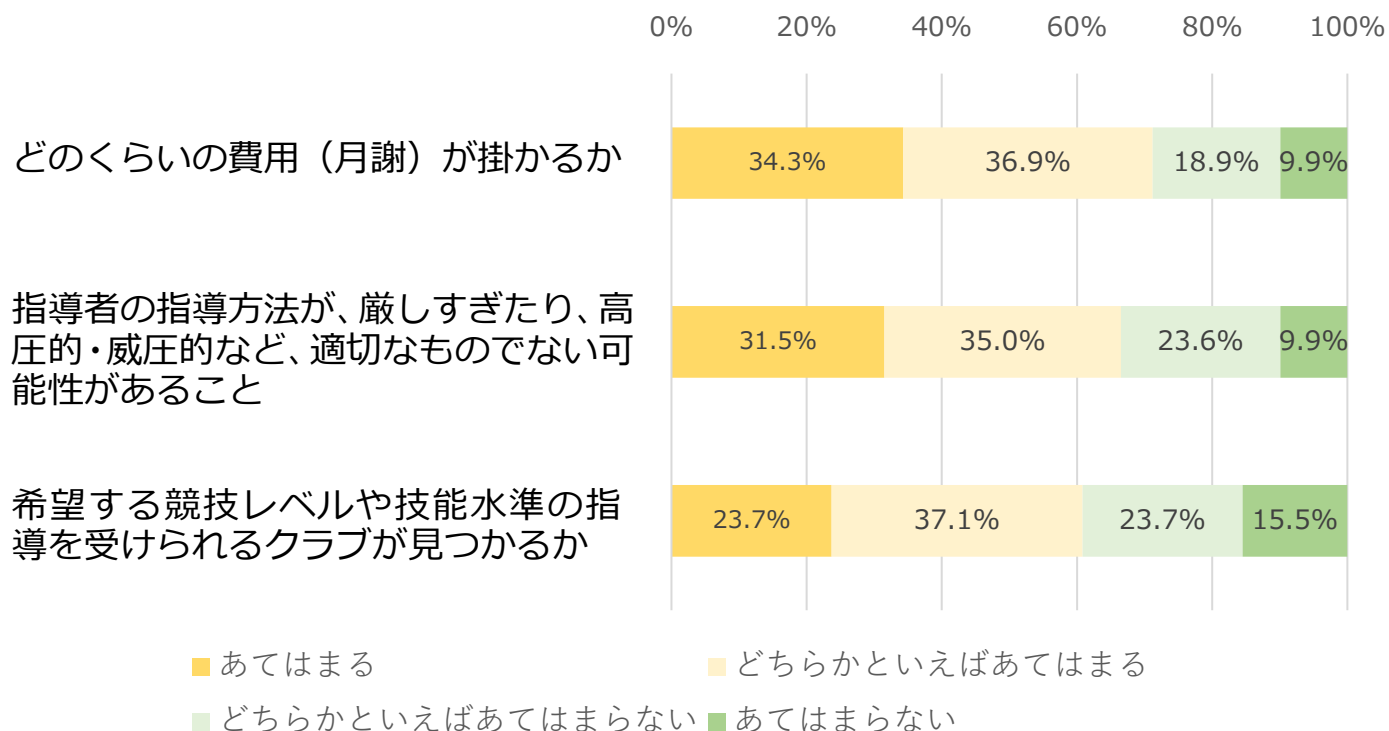
中学生保護者

地域クラブ活動への送迎の可否



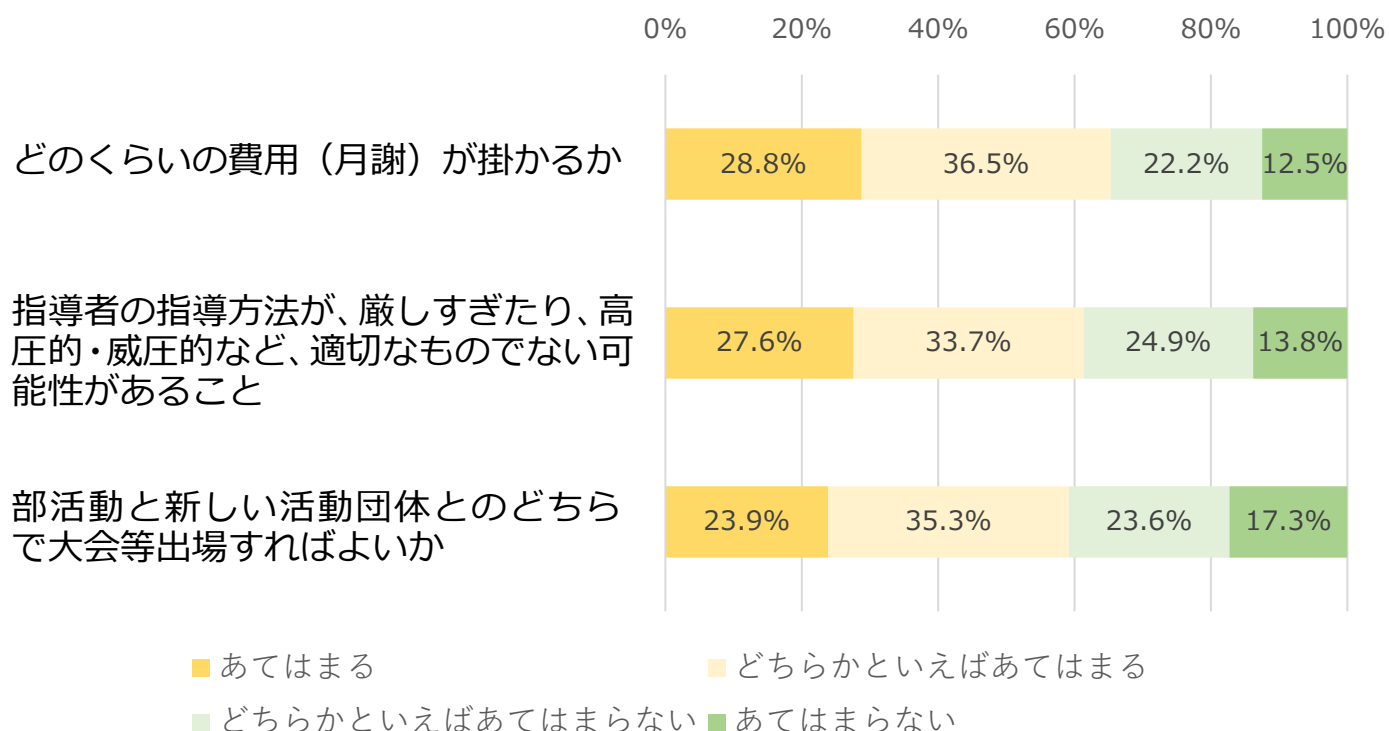
小学5・6年生保護者

地域クラブ活動への加入に伴う心配 トップ3



中学生保護者

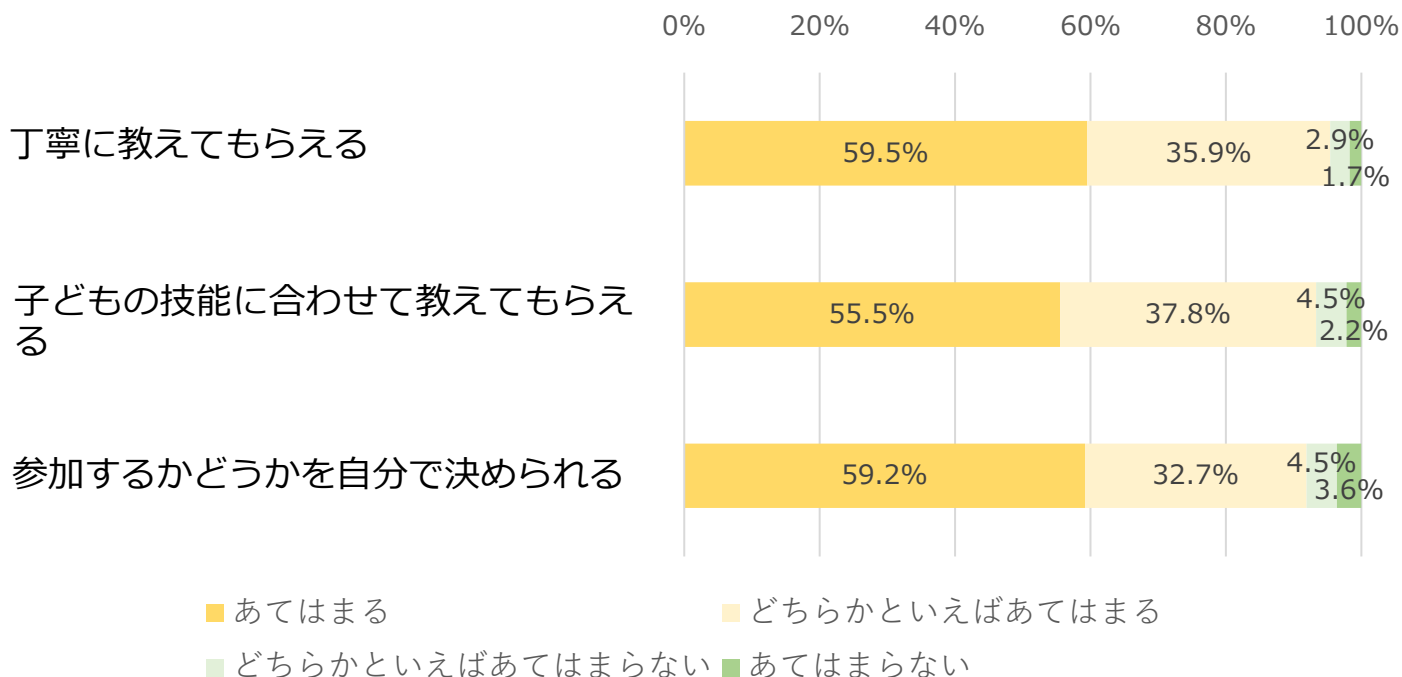
地域クラブ活動への加入に伴う心配 トップ3



小学5・6年生保護者

現在スポーツや文化活動をやっていない子どもが

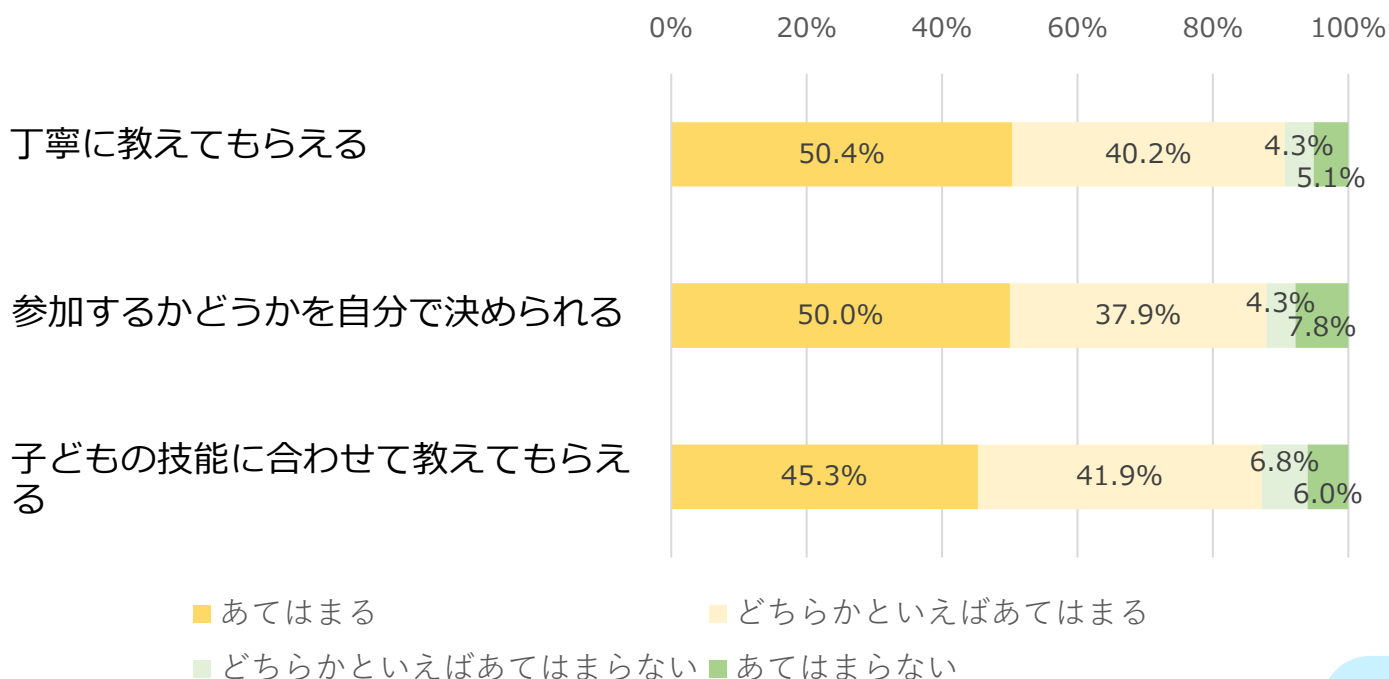
新たな地域クラブ活動に望むこと TOP 3



中学生保護者

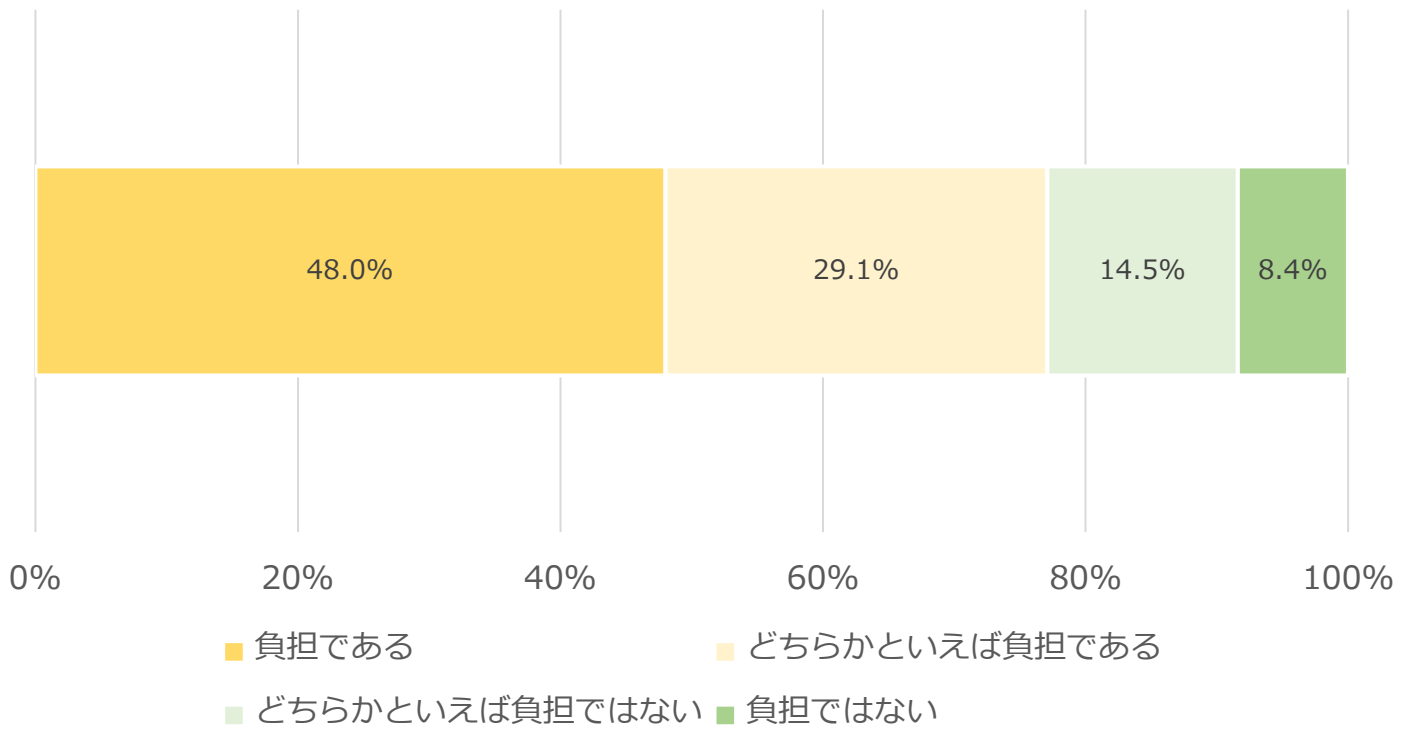
現在スポーツや文化活動をやっていない子どもが

新たな地域クラブ活動に望むこと TOP 3

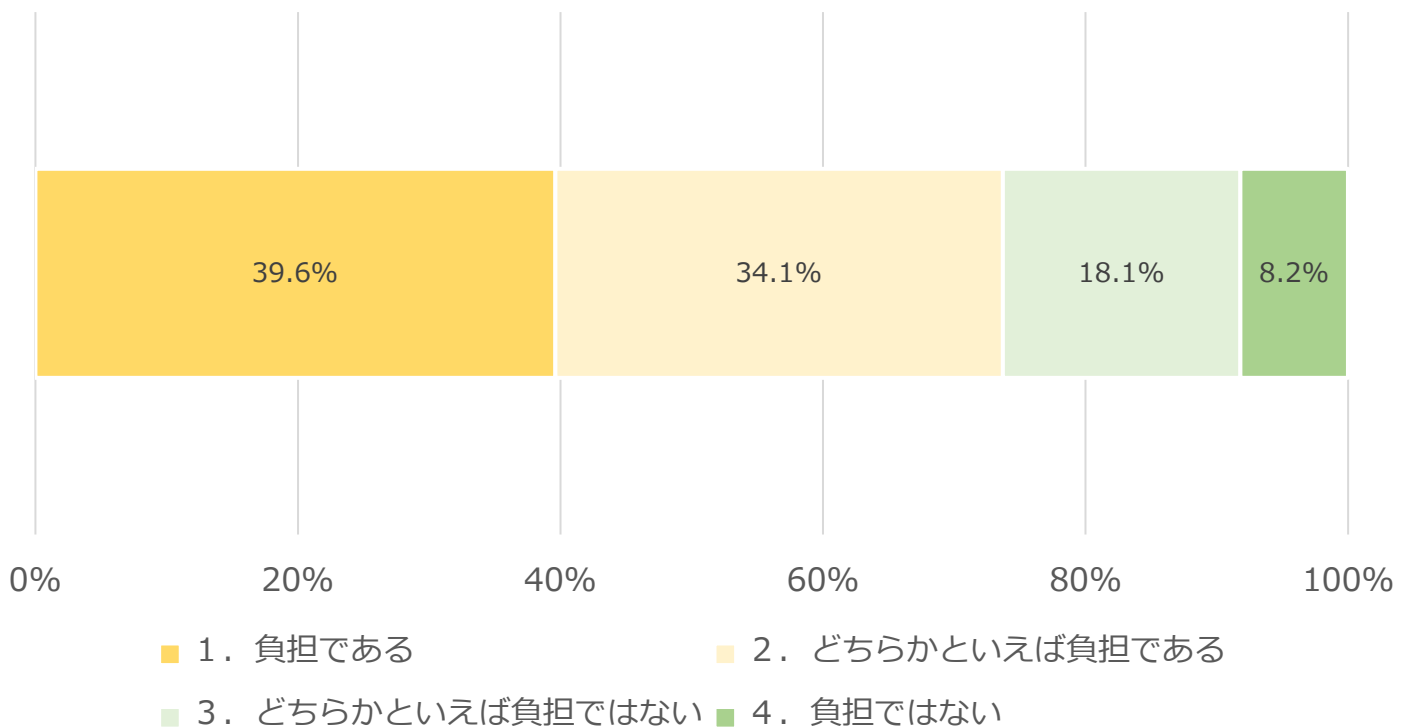


中学校教員

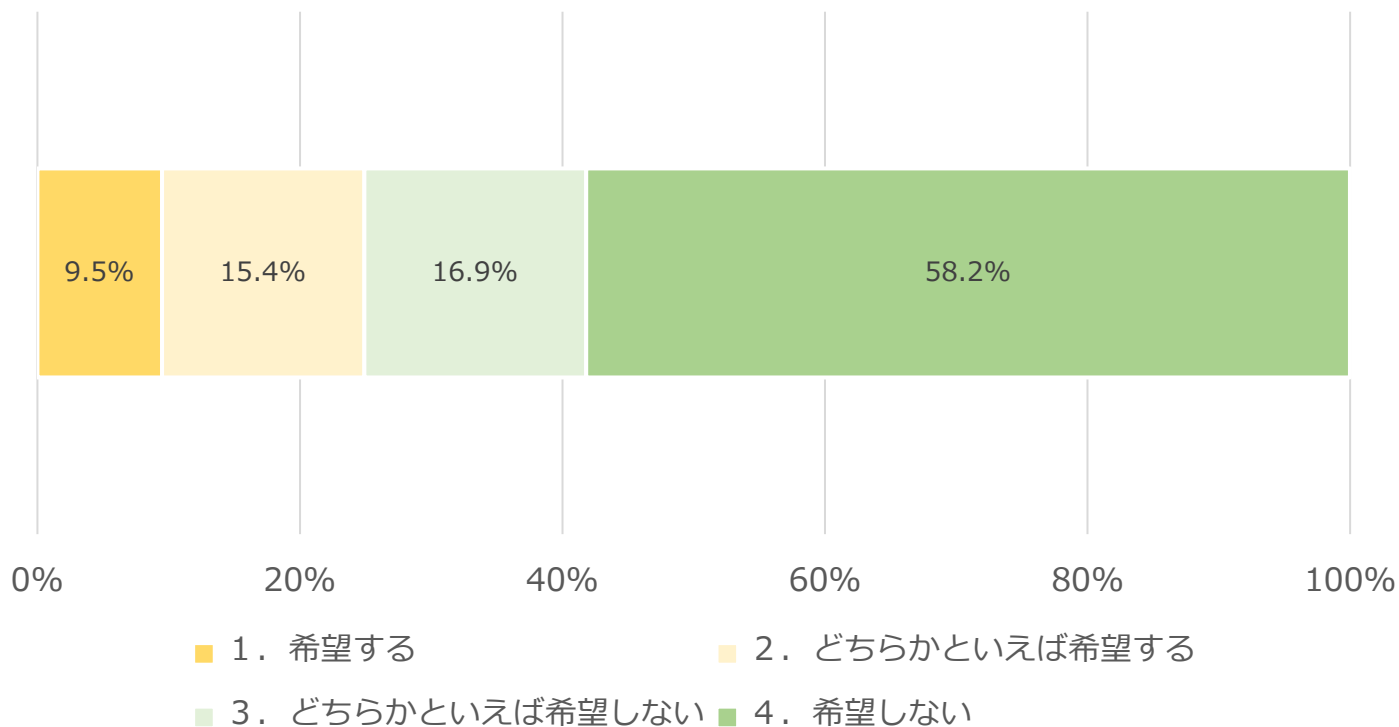
休日の部活動指導への負担感



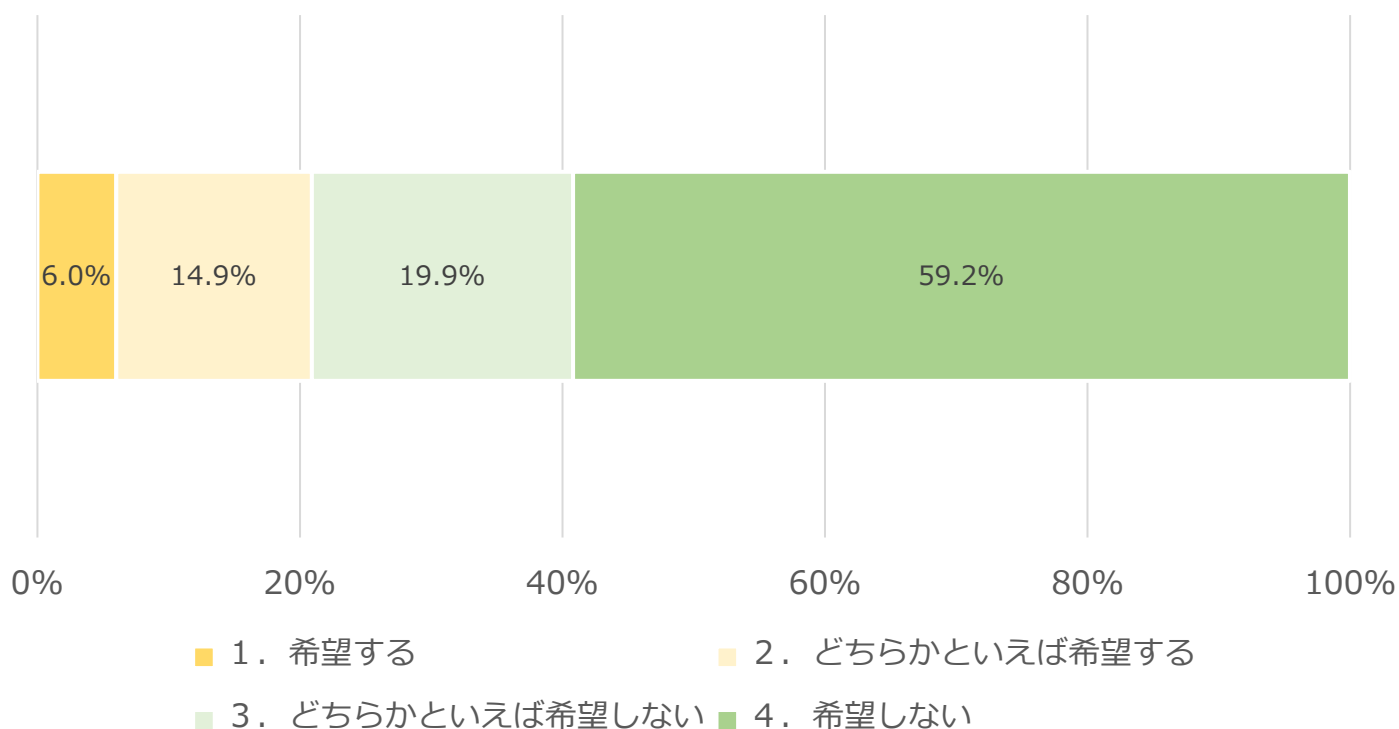
平日の部活動指導への負担感



移行後の休日の地域クラブ活動の指導希望

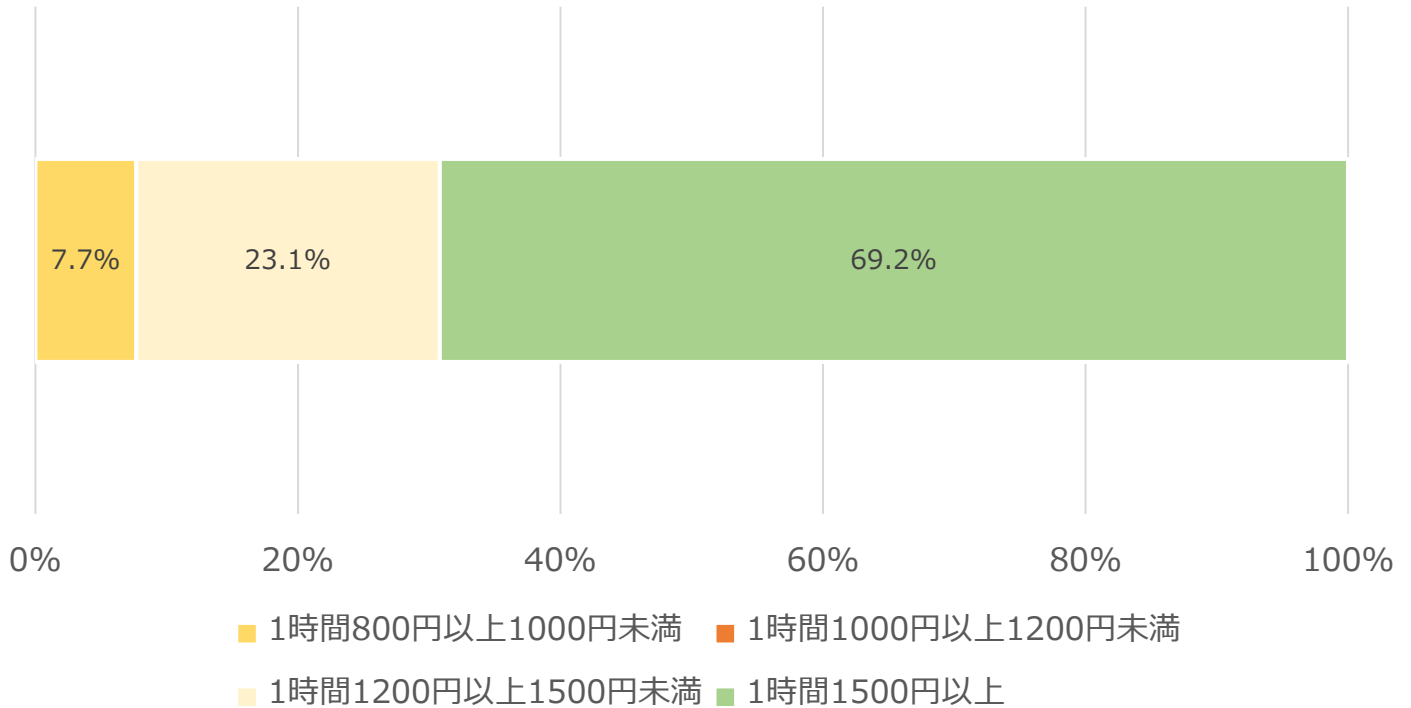


移行後の平日の地域クラブ活動の指導希望

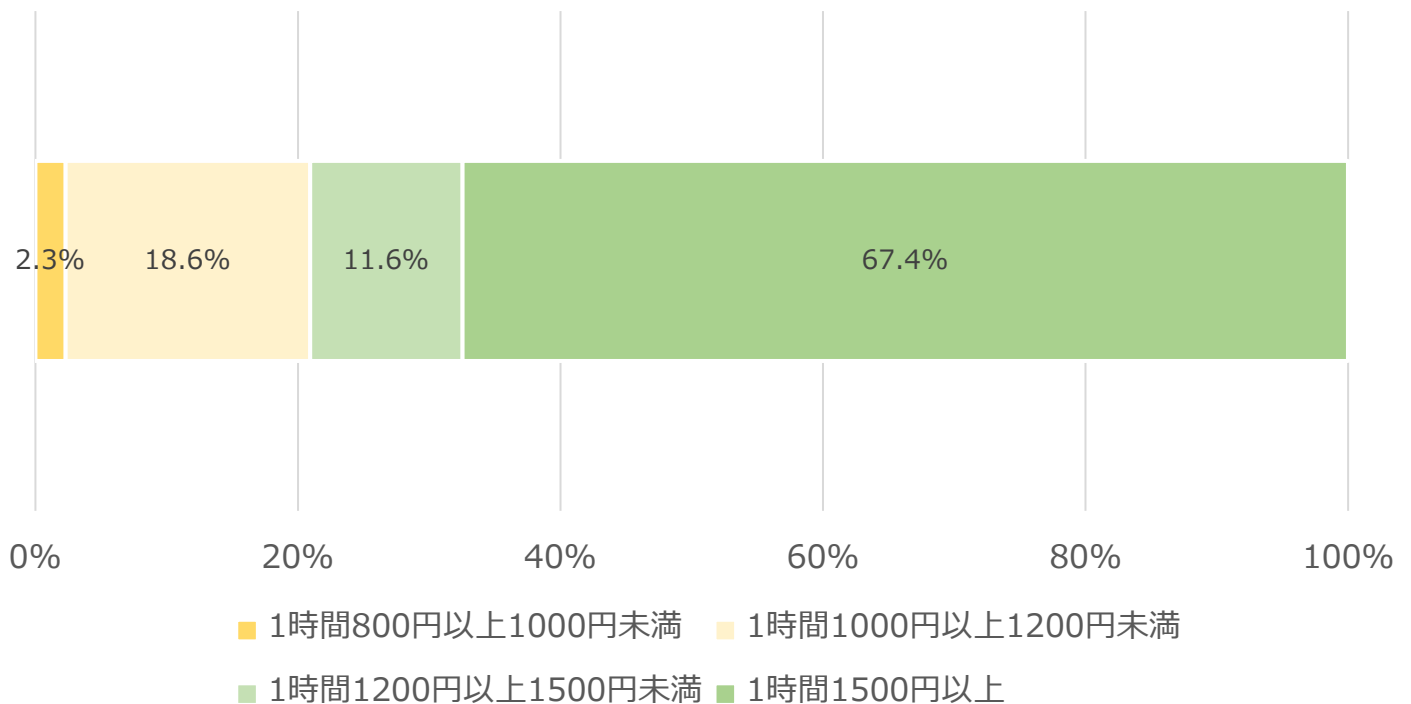


中学校教員

休日の地域クラブ活動の指導実施の際の希望報酬



平日の地域クラブ活動の指導実施の際の希望報酬



注1) 休日または平日の地域クラブ活動の指導希望について「希望しない」「どちらかといえば希望しない」と回答した者のうち、希望しない理由として「労働に対する対価が見合わないから」と回答した者への質問。

注2) 休日においては「1時間 1000 円以上 1200 円未満」は0%であった。

令和5年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点

別添6

・部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点を集約しました。この課題点は、令和4年12月に実施した調査結果及び希望中学校への訪問説明時や関連課との会議で出された意見から集約されました。
 ・分類には各内容に対する見出しを示し、課題提起者には内容の主な提起者に を付しました。対応者には、主担当として各内容への対応原案を作成する担当課を示しました。期限には対応完了期限を示しました。

	分類	内容	課題提起者			対応	対応者	期限	対応日
			学校	保護者	関係者				
1	市としての理念	松本市としてのビジョンを(しかるべき人から)示してほしい。休日部活動の移行という観点からだけでなく、松本市として、スポーツや文化の活動をどのように捉えているか示してほしい。この長期展望からR5(R6も)の地域クラブ活動の目指す姿(当面の完成形)を示してほしい。					学校教育課 スポーツ推進事業課	2023/10/1	
2	推進日程	本当に部活動の移行は行われるのか。いつから部活動がなくなる、ということを明言してほしい。覚悟が決まらない。令和8年度の移行に向けて、R5は何をするのか。具体的なスケジュールを示してほしい。					教育政策課 学校教育課	2023/10/1	
3	協議会	協議会の議論の様子を定期的に共有してほしい。何が決まって、何が課題点なのかについて、現場レベルでは情報が無い。校長会・教頭会等で教えてほしい。					教育政策課	2023/6/30	
4	協議会	どのようなルートで情報は周知され、どこが課題点を検討するのか。どこが何をするのか、という協議会の持ち方を明らかにしてほしい。					教育政策課	2023/6/30	
5	指導者	希望する教員が地域クラブ指導者となり、希望しない教員が関わらないで済む体制をお願いしたい。					学校教育課	2024/3/31	
6	競技会等の在り方	中体連以外の競技会運営にも教員が関わっていたが、今後、指導を希望しない教員が増えることが予想される。運営スタッフの不足を補充するアルバイト等を募集すれば、結果的に参加費の高騰を招く可能性がある。競技会等の在り方を検討する必要があるのではないか。					スポーツ推進事業課	2023/12/1	
7	地域クラブ活動の在り方	地域クラブ活動のガバナンスを担保する必要がある。指導者のハラスメント、異なる学校間で集まる生徒間のトラブルについても学校ではなく各地域クラブ活動で対応する必要がある。					スポーツ推進事業課	2023/12/1	
8	地域クラブ活動の在り方	レクリエーション志向の種目などをはじめ多様な種目を体験できる地域クラブ活動が活発になるよう期待したい。					教育政策課	2023/12/1	
9	指導者の質	教員が大切にしてきた生徒個人の特性等に応じた指導は、これからも重要である。子どもと接する機会が少ない地域クラブ指導者の質を向上するために研修の機会が必要である。市として研修会を確保してほしい。					スポーツ推進事業課	2024/3/31	
10	指導者の量	教員が「休日だけでなく、平日も指導に関わりたくない」という意思を表明する状況が予想される。休日も、まして平日の地域クラブ活動の指導者を確保することは困難である。一方で子どものスポーツや文化の活動の衰退は避けるべき。指導者を安定的に確保できる体制を手当てを含めて検討し、整えてほしい。持続的に関わることのできる指導者を確保するために人材バンク等の検討をお願いしたい。					教育政策課	2023/12/1	
11	指導者の量	国は教員に支給されてきた教員調整額の見直しを図っているようだが、今後残業代が支払われることで、教員が平日の時間外に部活動指導を担うという方針があるのか。国の動向を教えてください。					学校教育課	2024/3/31	
12	会費	地域クラブ活動への移行は、低廉な部費から高い月謝を支払うことへ転換されることが予想され、「やってみたい」活動を行えない生徒が一定数生じることが考えられる。低廉な月謝となるよう補助を検討いただくか、低廉な月謝となる地域クラブ活動を創設してほしい。そうでないと、スポーツや文化活動の衰退を招きかねない。					教育政策課 スポーツ推進事業課	2024/3/31	
13	送迎	今まで通学する中学校で練習が行われてきた。地域クラブ活動では活動場所は遠方になる可能性がある。周回バスなどにより、「やってみたい」を続けられるシステムを検討してほしい。					公共交通課	2024/3/31	
14	産学官の連携	体育館や文化施設を有する一般企業や、スポーツ関連企業、あるいは、近隣大学との連携により、地域に根ざすスポーツや文化の活動を醸成してほしい。					スポーツ推進事業課	2024/3/31	
15	第3者機関	部活動であれば、生徒間のトラブルや顧問の不適切な対応は、学校や教育委員会が指導管理してきた。今後地域クラブ活動を管理し、指導する機関が必要になるのではないかと。					スポーツ推進事業課	2024/3/31	
16	保険	地域クラブ活動への加入に際しては、子どもや指導者の怪我や事故への保障をカバーできる学校の共済保険と同等の保険への加入をお願いしたい。					学校教育課	2023/6/30	
17	施設・用器具	地域クラブ活動が学校施設を借りられないと活動できない。中学生が所属する団体には学校施設の優先利用をお願いしたい。そのための学校開放を検討してほしい。その際、校舎に入らなくてもよいトイレの充実や、ナイター整備も検討願いたい。また地域施設も同様に検討願いたい。					学校教育課施設担当	2024/3/31	
18	施設・用器具	たとえば吹奏楽では、楽器を保管でき、素早く練習を行うことのできる学校の音楽室の利用が期待される。この場合、地域クラブ活動が利用できる学校開放の在り方が求められる。具体的には、地域指導者が利用可能となるよう施設等の在り方を検討する必要がある。					学校教育課施設担当	2024/3/31	
19	施設・用器具	平日や休日の学校施設開放に学校が関わらない仕組みを作ってほしい。					学校教育課施設担当	2024/3/31	

令和5年度 部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点

別添6

- ・部活動の地域クラブ活動への移行に係る課題点を集約しました。この課題点は、令和4年12月に実施した調査結果及び希望中学校への訪問説明時や関連課との会議で出された意見から集約されました。
- ・分類には各内容に対する見出しを示し、課題提起者には内容の主な提起者に を付しました。対応者には、主担当として各内容への対応原案を作成する担当課を示しました。期限には対応完了期限を示しました。

No.	分類	内容	課題提起者			対応	対応者	期限	対応日
			学校	保護者	関係者				
20	施設・用器具	部活動では消耗品や備品として整備され利用できた用器具（デジタルタイマーやボール、楽器など）を地域クラブ活動は利用可能か。利用できる体制が必要だと思われる。					学校教育課施設担当 スポーツ推進事業課	2024/3/31	
21	指導方針	当面、平日と休日とで異なる指導者が指導するため、指導の方向性が異なると混乱する可能性がある。またどちらの団体で大会に出場したらよいかを迷う。					スポーツ推進事業課	2024/3/31	
22	兼職兼業による指導の混乱	兼職兼業が許可された教員が、平日は部活動の野球を指導し、休日は地域クラブ活動のサッカーを指導している。休日に中体連大会と地域クラブ活動の大会とが重なった場合、どちらを優先する必要があるか。本務は学校であることから部活動を優先することは理解しているが、一方で地域クラブ活動の醸成を目指す際には、この問題がクリアにならないと足かせになる。可能であれば、このような問題をクリアするために休日のみならず平日の部活動の廃止を検討してほしい。					学校教育課	2024/3/31	
23	特色ある地域クラブ活動	活動自体を楽しむレクリエーション志向の地域クラブ活動を増やしてほしい。競技志向すぎると入ることにハードルが高くなると思われる。様々な活動を整備してほしい。					スポーツ推進事業課 生涯学習課 文化振興課	2024/3/31	
24	地域クラブ活動の在り方	新規に地域クラブ活動の団体を設立したいが、どうしたらよいらうか。					スポーツ推進事業課 生涯学習課 文化振興課	2023/7/30	
25	部活動の在り方	学校は、今後入学する生徒数を勘案して、部活動の存続や他校への委任指導、合同部活動など、部活動の在り方を検討しはじめてよいか。部活動を廃部とすれば、他の部活動の人数が増える偏りが生まれる可能性もある。同様に他校との調整を図る必要はないか。学校として動きたいが、どのように動いたらよいか教えてほしい。この検討の際、学校間のみならず競技協会、中体連等との連携をお願いしたい。また拠点校部活動についても同時に検討願いたい。					学校教育課	2023/12/1	
26	県の財源	休日の部活動には、部活動手当が支給されていた。地域移行が進み、顧問が指導しなくなれば、県はこの財源をどのように活用していくのか。この財源が地域クラブ活動への補助となるか。					教育政策課	2024/3/31	
27	地域特性	山間地の部活動をどのように移行するのか。山間部の学校の生徒の「やってみよう」を実現するために、送迎の問題を含めて検討してほしい。					教育政策課	2024/3/31	